

14. 21-797 .24
797



事業報告

雪國更生協会編

昭和九年度



始



14.2
797

昭和十年五月

昭和九年度事業報告書

雪國更生協會



昭和九年
年度

雪國更生協會事業報告



緒言

一、昭和九年七月二十九日創立發會式を挙げ、八月中に内部機構及會計其他諸般の事務を整理し、九月より所定事業の遂行に當りたるものなれば、期間は僅か半歳に過ぎず、而も歳入思はしからず、従つて主力を調査事項に傾注するの已むなきに至り、刊行物其他外部活動には頗る遺憾を残したり。

一、昭和八年冬より昭和九年春にかけて、近年稀有なる大雪を見たる雪國地方は、融雪期に至るも残雪、地上數尺に及びたる地域も珍しからず、爲めに播種期及挿秧期は遅延し、農事作業全般に亘り、根底的なる違算を生じたのみならず、其の後の天候は不順に不順を重ね、霖雨數旬日照更になく、數次大雨洪水を齎らし、遂に早寒早冷の襲ふ所となりて、平坦部は稻熱病、山間部は青立不登熟の結果に陥り、天明天保以來の大凶作を招來せり。然るに農業生産は雪國地方にとりて唯一の生命財産なれば、農業の分野に於ける大凶作は、直ちに經濟機構の全面的混亂を來し、拾收すべからざる困窮状態に陥るの惨狀を露呈せるを以て、政府は臨時議會を招集して對策を講ずるに至りたり。茲に於て雪國更生協會は、各縣廳農務課、農事試驗場、測候所、郡農會等に對し、數回照會を發して、不斷の調査を怠らず、進みて松岡俊三代議士の來援を乞ひて、東北六縣各地の稻作状況を實地に踏査視察して、詳密なる地圖及圖表を作成し、以て議會活動に遺憾なきを期したり。

一、雪國地方の窮乏は大凶作によりて致命的大打撃を蒙りたるも、其は偶然が齎したる點火の動機に過ぎず。換言すれば窮乏雪國の眞情は、凶作を待たずして自然爆發の醗酵作用を内部的に蘊釀しつゝありたるものなり。従つて雪國地方の匡救施設は勿論、之が永遠の振興計畫に至りては、其の根柢に横はる病源を剔抉して根本治療を加へずんば到底所期の目的を達成すること能はず。即ち之が病源の奈邊にありや、而して窮乏雪國の衰弱は如何なる經過を辿りて今日に至れるやは、協會の主要なる調査任務に屬す。故に協會は各町村に照會して可及的多數の報告材料を蒐集し、之を地域別、階級別に整理して、臨時議會の參考資料に提供したり。

一、嘗て昭和七年松岡俊三代議士の主宰せる雪の日本社は、「雪國地方に於ける凶作飢饉の歴史的調査」をなし「凶作飢饉年表」を公表せ

ることありしが、雪國更生協會は該年表を基本にし、更に各縣史、各郡史、其他の文献を涉獵して、より充實せる、より詳細なる年表と對策表を作成し、農林當局の參考に供したり。

一、雪國地方の農民經濟と備荒施設——殊に備荒郷藏との關係は、密接不可分の状態にありたるものなり。殊に村落經濟を本体とし、五人組十人組等の小經濟團體によりて結合せられたりし封建治下に在りては、備荒施設は經濟的にも精神的にも名實共に、村落經濟の中核をなせり。然るに今や經濟更生事業の實際的活動は封建の昔に還り、部落主義が強調せられ、隣保相助が本体とせらるゝに至れり。而して自助救済と自力更生を經濟更生事業の窮極的目標となすに於ては、備荒郷藏の復活を企圖せざるべからざるは論なし。されば協會は政府の未だ手を觸れざるに先立ち「備荒郷藏に關する調査」を各地に依頼し、之を集計整理して、政府當局の參考に供したり。

一、大凶作を契機として、雪國地方の諸問題は、朝野の異常なる視聽を集め、大臣顯官等は陸續として凶作視察に名を借りて各地を踏査し、地方民の口より直接に、困窮の實情を耳にせり。然れ共一夜作りの發願は、到底十分に真相を把握すること能はざるを懸念せられたるを以て、協會は政府當局並に帝國議會に對し「雪國地方振興に關する陳情書」を提出せり。同時に又理事關司安正は「東北地方大凶作の原因、現狀、對策」と題する三百五十頁の著書を刊行し、朝野識者の猛省と發奮を促せり。

一、叙上の如く昭和九年度に於ては、協會の全智全能全努力を傾注して凶作對策に力戰奮闘し、内部的にも外部的にも至大なる効果を收めたることを確信して疑はず。東北六縣の名譽の爲に義捐金募集等の卑屈哀願的方法是執らざりしも、正々堂々我國の實情に照準し、他府縣の現狀と比較して、東北問題を看過し忽緒に附す能はざる所以を、實際的統計と諸般の事實とを普ねく蒐集網羅して、朝野各方面に明證せり。

一、本事業報告書は其の一斑なり。十二分に味讀せられたし。

目次

緒言 會務報告

- 一、庶務.....一
- 二、印刷物刊行.....四
- 三、陳情書提出.....五

調査報告

- 一、生産額に関する調査.....九
 - (一) 總生産額、一戸當、一人當生産額.....九
 - (二) 各種生産額.....一五
- 二、保健衛生に関する調査.....三三
 - (一) 醫師、出生、死亡.....三三
 - (二) 死亡原因.....三六
 - (三) 農村住宅.....三九
 - (四) 榮養問題.....四三

三、租税負擔に関する調査

- (一) 租税負擔の状況.....三三
- (二) 生産額と負擔額との比較.....三六
- (三) 滞納の状況.....四三

四、農業氣象に関する調査

- (一) 氣温關係.....四〇
- (二) 日照關係.....四三
- (三) 降水量關係.....四六
- (四) 天氣日數.....四八
- (五) 降雪日數.....六一
- (六) 氣象と農事作業.....六三

五、農家に關する調査

- (一) 農家戸數及養蠶戸數.....六八
- (二) 自作及小作農家.....七一

六、耕地に關する調査

- (一) 一毛作と二毛作.....七五
- (二) 土地生産力.....七九

七、小作問題に關する調査

(一) 小作争議發生件數	八二
(二) 争議原因	八三
八、農家負債に關する調査	六六
九、農村の窮乏状態に關する調査	六〇
一〇、凶作状況に關する調査	六六
(一) 米收穫高	六六
(二) 收穫高順位	六九
(三) 減收歩合	一〇一
(四) 段當收穫高	一〇一
一一、凶作克服の事例に關する調査	一〇四
(一) 青森縣の篤農家実績	一〇四
(二) 本名正雄君の稻作	一〇九
(三) 坂本久一郎君の多角經營	一一二
(四) 山形縣飽海郡農會の参考事例	一一七
郵便貯金一人當
國有林野營林局別狀況

會務報告

(一) 小作争議発生件数	八二
(二) 争議原因	八三
八、農家負債に關する調査	八六
九、農村の窮乏状態に關する調査	九〇
一〇、凶作状況に關する調査	九六
(一) 米收穫高	九六
(二) 收穫高順位	九九
(三) 減收歩合	一〇一
(四) 段當收穫高	一〇一
一一、凶作克服の事例に關する調査	一〇四
(一) 青森縣の篤農家事績	一〇四
(二) 本名正雄君の稻作	一〇六
(三) 坂本久一郎君の多角經營	一一二
(四) 山形縣飽海郡農會の参考事例	一一二
郵便貯金一人當	一一三
國有林野營林局別狀況	一一三

會務報告

14.2x-797

一、庶務

昭和九年七月二十九日

山形縣新庄町に設置せられたる積雪地方農村經濟調査所落成式後、同所會議室に於て雪國更生協會發會式を舉行す。田中山形縣町村長會長開會の挨拶を述べ、圖司農林省囑託經過報告、然る後左の祝辭ありたり

- 一、農林大臣 山崎達之輔閣下(長瀬次官代讀)
 - 二、内務省雪害對策調査會囑託 柳井義雄氏
 - 三、山形縣知事 石原雅二郎閣下
 - 四、積雪地方農村經濟調査所長 山口弘道氏
 - 五、衆議院議員 松岡俊三氏
- 閉會後同町旭館に於て盛大なる披露祝賀宴を催せり

昭和九年七月三十日



積雪地方農村經濟調査所に於て一道六縣及新潟縣町村長會長出席、來賓として松岡代議士、五十子農林省副業課長、山口調査所長參列。先づ協會の組織及經營に關して意見の交換を行ひたる後、會長、副會長及理事長を左の如く依囑す

- 會長 山形縣町村長會長 田中 庸 茂氏
 - 副會長 北海道町村長會長 山内 鐵 藏氏
 - 理事長 山形縣新庄町長 高橋 德 太郎氏
- 役員は會長任命のこと

會則及事業等は原案通り承認執行のこと（雪國更生協會趣意書と事業参照）

次いで協議に入り、五十子副業課長、山口所長を中心に、懇談的に種々意見の交換を行ふ。協議題左の如し

- 一、雪害調査の基準設定に關する件
- 二、雪國に於ける經濟更生事業に關する件

昭和九年八月二十日

會長より評議員及理事を左の諸氏に囑託す

評議員	青森縣町村長會長	北村 誠一氏
同	岩手縣町村長會長	細川 久氏
同	宮城縣町村長會長	木村 匡氏
同	福島縣町村長會長	鈴木 友輔氏
同	秋田縣町村長會長	土田 萬助氏
同	青森縣松岡後援會長	鳴海文 四郎氏
同	山形縣正道會代表	國井 經崇氏
同	同	柏倉九左衛門氏
理事	山形縣新庄町助役	金田 靖彦氏
同	山形縣新庄町收入役	五十嵐純二氏
同	山形縣最上郡町村長會副會長	山内 一誠氏
同	山形縣町村長會副會長	朝岡 勇雄氏
同	同	本間治右衛門氏

昭和九年八月二十五日

山形縣新庄町役場に於て理事會開催。出席者

會長	田中 庸茂氏	理事長	高橋徳太郎氏
理事	金田 靖彦氏	理事	松澤 敬之氏
同	山内 一誠氏	同	五十嵐純二氏
同	五十嵐 源三郎氏	同	圖司 安正氏
來賓	積雪地方農村經濟調査所長 山口 弘道氏		

決定事項概要左の如し

- 一、事務所を新庄町役場内に置くこと
- 二、事務分擔は主として庶務編輯調査に圖司理事、會計に五十嵐（純）理事、他に新庄町役場吏員を事務員に囑託すること
- 三、昭和九年度會費は各郡町村長會を單位に郡町村長會事務所に於てお纏めを願ふこと
- 四、理事長代決事項
- 五、旅費は新庄町費用辨償報酬給料及旅費給與條例を準用すること

昭和九年八月二十八日

理事長より山形縣各郡町村長會長宛昭和九年度會費取纏方の懇請狀を發送す

昭和九年八月三十一日

會長より一、道六縣町村長會長宛昭和九年度會費取纏方の懇請狀を發送す

昭和九年十一月二十一日

宮城縣仙臺市齋藤報恩會に於て臨時東北六縣町村長會の開催せられたるを機とし、圖司理事を出席せしめて、會務概要、調査事務一斑に關して報告せしむ。

昭和十年一月二十二日より二月二十日まで

圖司理事、農林省より凶作及郷倉に關する調査のため東北六縣に出張を命ぜられたるにより、協會は同理事に托して北海道、東北六縣町村長會を訪問せしめて未納會費取纏方を懇請せしむ。

二、印刷物刊行

昭和九年七月二十九日

雪國更生協會の趣意書と事業發行

昭和九年十二月二十日

雪國更生曆發行

昭和十年二月二十日

雪害對策決定要綱發行

因みに昭和九年十一月臨時議會開會中に於て、精密なる凶作狀況調査を各町村毎に取纏め、朝野に配布し、更に圖司理事の名を以てして「東北地方大凶作の原因現狀對策」と題して東京より出版したり。

三、陳情書提出

昭和十年一月十日休會明議會に先だち内閣總理大臣、内務、農林、大藏三大臣及貴衆兩院議員並に東北振興調査會、雪害對策調査會に宛て左の陳情書を提出したり

雪國地方振興に關する陳情書

謹みて雪國更生協會は、會員たる東北北海道全市町村長を代表し、連年打續く經濟界の不況と昨年未曾有の大凶作の爲、慘憺たる飢饉地獄を現出しつつある農民の窮狀を懇へ、併せて耐忍不拔の雪國民が、如何に勇猛不退轉の大努力を以て、非常時克服に勇往邁進しつつあり

やの實狀を具陳し、凶作を好餌として救済を叫ぶが如き卑屈心は毛頭無之を十二分に御諒察賜はり、今や絶對絶命の窮地に陥り、自助救済を以てしては、到底更生の實を擧ぐる能はざるが故に、節を屈して己むなく茲に、緊急焦眉の左記事項に關し、特別の御措置賜はる様伏して懇願奉る次第に御座候

六

雪國地方の自然は北方寒冷地帯に屬し、山岳丘陵相連なり、農耕期間短く一毛作の己むなきに在るのみならず、屢々霖雨早冷の襲來を蒙りて不作凶作相續き、加之冬期半歳の降積雪期間は毎年、戸外勞働不能にして餘剩勞力消化の道も無之、其の他自然の不利状態は擧げて數ふべからず、然るに徳川三百年の中央集權的封鎖經濟は、參觀交替日光造營等によりて極度に諸侯を疲弊せしめ、延いて農民を不生不殺の困窮状態に陥らしめたるものにて、明治政府は更に奥羽連衡の懲罰的意味を加へて徳川の惡政を踏襲し、産業、文化、教育、税制、すべて東北地方は關南西の糟粕を嘗め、爲に交通開けず産業興らず文化振はざるの未開状態にあれど、納税、兵役其の他國民たるの義務は逃んで自ら最全最高を發揮し、斷じて他に譲らず、然れ共如何せん最近數年に亘る經濟不況と天變災害とは、極度の生活窮乏を招來し、缺食兒童の激増、娘賣りの續出、小作爭議の頻發等、幾多悲惨なる社會問題を續々發生せしめて全日本國民の視聽を集め、殊に昨年未曾有の大凶作に依り深刻なる飯米飢饉に直面して草根木皮に命を繋ぐの慘狀を露呈致し居り候。されど耐忍不拔の雪國民は斷じて救済を口にせず、全智全能を傾注して自助救済、自力更生に邁進しつゝある次第に候へば、政府當局も、雪害對策調査會の決定要綱を一日も早く御實行相成ると共に、左記に關し特別の御詮議を以て早急の御措置賜はる様懇願候

左記

一、雪國地方に於ける國有林野純益を還元して積雪地方農村經濟調査所を擴充し、雪國地方に於ける雪害防除、經濟更生、其他地方振興に關する調査及指導の綜合機關たらしめられ度

雪國地方に於ける國有林野純益は毎年六百萬圓乃至八百萬圓に達するが故に、之を還元して積雪地方農村經濟調査所を擴充し、雪國地方關係の農林省各局部及び産業組合、各種農事試驗機關、農業氣象觀測設備等を所屬せしめ、各縣廳には支部を設置して連絡を緊密にし、中央並地方が總動員を以て雪國地方の更生に献身せられ度候

一、負債整理事業の徹底と經濟更生事業の速進を圖り、農民を借金地獄より解放して、希望に輝き働き甲斐のある方法を講ぜられ度

農民生活の致命的痛腫は負債に有之、一年の全收入を以てするも償還し得ざる多額のものにて、而も一割三分乃至一割五分の高利債多く、好況時代に漫然無計畫に借財したるものが利に利が重なりて今日に到れる有様なれば、此の際非常手段を講じて徹底的に整理する必要を痛感せられ候へ共、個々の農民にては何等の方法手段も無之候へば、政府に於て適切なる非常政策を講ぜられ度候。農民は負債の重荷さへ下せば心氣一轉して經濟更生に邁進するものなれば、其の機を逸せず經濟更生事業の速進を企圖せられ、農民經濟の根底的立直しを講ぜられ度候。

一、各種産業助成の國庫補助金、獎勵金、交付金等を倍加せらるゝと共に、産業組合を充實して資金の融通、販賣購買の圓滑化を圖られ度
全國各府縣平等一率の助成方法は公正妥當の國家政策に非ざるは勿論にて、雪國地方の如き未開産業は積極的に政府の御助成を仰ぐに非ざれば到底振興は覺束なく、同時に産業組合の官僚弊を橋めて眞の民衆機關とし、小額資金の融通を簡便にし、販賣購買の圓滑化を圖るは當面の急務に御座候

一、雪國地方に關する特殊の綜合法令を制定して、一切の基準を明確にするまで、地租法其他の法令に臨時便法を講ぜられ度

行政の機構と運用とは法令の根據を必要とするものなれば、雪國地方特殊の振興對策も、現行法令を改廢是正して新法令を制定せざる限り、恒久的なる雪國民の福利増進とならざれば、十分慎重なる御計畫の下に雪國地方の實情に即したる特殊の綜合法令を制定して、雪國地方との照準を明瞭にせられ度候。而して該法令の制定さるゝまでは臨時便法として、地租法の如きは現行課率百分の三、八を百分の二、六に改め、其他諸種の法令に夫々雪國地方の特殊性を明認する方法を講ぜられ度候

一、尋常小學校教員俸給の全額國庫負擔、缺食兒童に對する給食及學用品給與其他義務教育に關する根本的不安の除去に最善を期せられ度
一、地方財政調整交付金制度を創設して破産の状態にある雪國地方町村の財政を匡救すると共に、國家の委任事務を整理統一して、本來の自治的權能を十分に發揮するやうに御深慮相成度

昭和十年一月十日

調
査
報
告

山形縣町村長會長
雪國更生協會長
田中庸茂

調
査
報
告

山形縣町村長會長
雪國更生協會長 田中庸茂

一、生産額に關する調査

雪國地方に於ける生産資源の單純にして貧弱なるは衆口一致の定評なり。果して然らば全國各道府縣に比較して如何なる状態にありや、と反問せられたる場合に、直ちに之が明確なる答辯をなし得る者幾人ありや。恐らくは次代の國民を教育する職にある人士に於てすら、その極めて寥々たるものあらん。吾人の常識の不確實にして上辺りなること萬事かくの如し。

生産額調査は萬般の基礎にして更生の根基なり。之を一戸當、一人當に見る時は、家計の標準となり、負債整理の目標となり、富力の算定ともなるべし。之を耕地一段當に見る時は土地生産力の推定ともならん。過去に鑑み、現實に比照し、將來に計量する時に於て、吾人は無限の興奮と、發憤と、責任と、負けじ魂とを感得するなるべし。せざるべけんや。

(一) 總生産額、一戸當、一人當生産額

(山形縣統計課調査)

總生産額は總面積の廣狹に比例すること比較的大なれば、全國各道府縣同一ならざる現行政機構の下にありてはその比較は正確に非ず。故に之を一戸當に求め、一人當とせざるべからず。一戸當、一人當とするも其の順位に多少の變動あり。即ち世帯構成人員に差等あるが故なり。而して東北北海道地方にありては、一戸當の順位より一人當の順位が低下せるは、世帯人員が他地方よりも多きを示す。又事實に於て多きなり。昭和七八年のみの比較表しか示さざれど、東北六縣舉りて下位を占め、最下位より四五位邊を汗みどろに競争せるを見る時、之が年々歳々繰り返さるゝ状態なるだけに、調査者は算盤を弾くの元氣を喪失すると云ふも過言ならず。

昭和七年各道府縣總生産額

高 愛 香 德 山 廣 岡 島 鳥 和 奈 兵 大 京 滋 三 愛 靜 岐 長
 知 媛 川 島 口 島 山 根 取 山 良 庫 阪 都 賀 重 知 岡 早 野

六、七九	一六、九三	一一、三四	九、三六	一四、四四	三三、六八	三三、〇二	八五、五六	五、〇三八	一五、六八	六、九八	七、六四	一、六六、四九	三〇九、六六	一四、〇四	一七、〇四	七四、七六	二七、七六	一六、三九	三〇八、九八
45	20	33	37	15	10	11	39	46	18	43	3	1	8	29	17	4	9	14	13
四四	七六	七四〇	六五	七九	六五	八〇八	五四	五四	九九〇	六四〇	一、三一	一、六九	九四三	九〇六	七五六	一、四三七	八三八	八三	三七
45	21	19	26	20	25	16	39	37	6	27	3	1	9	11	18	2	12	13	28
六	一四八	一五	一三〇	一六	一三七	一五	一〇八	一〇六	二二	一九	二八三	三五	一五	一四	一五	三〇	一五	一七	三二
41	20	18	24	13	21	11	33	35	6	25	3	1	22	8	16	2	17	12	28

山 神 東 千 埼 群 栃 茨 福 石 富 新 山 秋 福 宮 岩 青 北
 奈 川 京 葉 玉 馬 木 城 井 川 山 潟 形 田 島 城 手 森 道

七、七五	一、三九、五二	一〇八、三三七	一五九、四〇	二六、四六	一七九、五六	一七〇、三九	一五〇、三六	一五〇、〇七	一九、九〇	一四、〇四	二七、四二	一〇七、四八	一〇三、六五	一五、〇三	一〇、七九	九、九五	八、二九	三〇、九三	總生産額
44	6	2	23	21	6	19	24	25	32	26	12	34	35	27	36	38	41	7	千円
六九	一、一七	九六三	五七	五五	八七	八八	五五	一、一七	七四	九九	三七	六七	六〇	五八	五四	五〇	四八	六四八	一戸當
31	4	7	36	29	15	14	43	5	17	8	32	34	33	41	40	35	38	24	円
一三	三三	一〇〇	一〇七	一一	一五	一八	一〇	三四	一五	一五	一一	一〇〇	一〇五	六	八	五	五	二七	一人當
27	5	7	34	31	19	15	39	4	14	9	32	40	36	43	45	42	44	30	円

新	富	石	福	茨	栃	群	埼	千	東	神	山	長	岐	靜	愛	三	滋	京	大
潟	山	川	井	城	木	馬	玉	葉	京	川	梨	野	阜	岡	知	重	賀	都	阪
二六三、六九四	一八三、三七八	一五、二七四	一七三、六八九	一七五、五〇一	二〇三、三三四	二二六、一〇八	二二五、九九九	一八七、九九九	一、三五一、三七五	五三三、四四四	九三、〇五三	三五、〇六六	三三三、七〇九	三四〇、五九三	九六六、〇〇四	二二六、四九七	一六七、三八七	三〇七、九八八	一、六六一、五五六
12	24	30	27	26	21	17	18	23	2	6	43	13	15	9	3	16	28	8	1
七六一	一、二二六	九六	一、三六〇	三九九	九二	九六	八六	八八	一、三〇〇	一、三六八	六一	七四	一、〇〇六	一、三九九	一、八七〇	六一	一、〇八	二、七二	
28	6	18	5	42	17	16	23	40	9	4	30	25	14	11	2	20	10	12	1
一、六一	二、三五	一九三	二八〇	一八	一七	一八三	四八	二八	三三〇	三三三	二二	一三三	一八三	一八	三六	一六	二二	三二	四九
31	9	15	5	39	23	19	27	35	6	4	33	28	18	16	2	14	8	13	1

山秋福宮岩青北
形田島城手森道

山	秋	福	宮	岩	青	北
形	田	島	城	手	森	道
一、一七〇、四〇〇	一、三三〇、〇一六	一、八〇、一八四	一、三七、〇二二	一、六六、七〇六	一〇一、六三五	五〇五、五〇五
37	36	25	34	35	40	7
六八八	七美	六七	六七	七三	六五	九四
36	33	37	39	26	38	19
二二	一五	二六	二二	二四	二六	二七
43	37	41	45	38	40	20

昭和八年各道府縣總生產額

沖	鹿	宮	大	熊	長	佐	福
繩	島	崎	分	本	崎	賀	岡
四三、四三三	一三九、〇元	七九、三六八	一六、三五五	一六、八一〇	一七、四七五	八五、三七七	四六、三八三
47	28	42	31	22	30	40	5
三四九	四三	五六	六三	三一	五八	六三	九六
47	46	42	23	30	44	22	10
七	九	一〇	一四	一〇	一三	一三	一五
47	46	37	23	29	38	26	10

兵庫	4,106	1,671	3
奈良	9,776	760	32
和歌山	22,082	1,101	8
鳥取	6,453	699	41
島根	5,124	609	43
岡山	27,039	1,008	13
広島	26,081	733	34
山口	25,044	1,055	15
徳島	16,233	804	24
香川	16,166	854	22
愛媛	22,567	887	21
高知	8,433	533	45
福岡	61,700	1,355	7
佐賀	9,333	644	27
長崎	14,366	661	44
熊本	19,090	766	31
大分	14,966	761	28
宮崎	10,755	699	35
鹿児島	16,553	495	46
沖縄	9,455	401	47

(二) 各種生産額

雪國地方の生産は原始生産に偏傾して、加工生産の如き極めて貧弱なり。原始生産なるが故に、宜しく搾取の客体となり、働き損の足疲儲けを、多年に亘りて如實に体験せる筈なり。見よ農産を除外すれば、僅かに林産・鑛産のみが他府縣並の順位を占むる状態ならずや。而して其の金額を見んか、工産に比して餘りにも少額にて雀の涙にも及ばず。

工産を見よ、第一位大阪府第二位東京府の如き、東北六縣の總生産額よりも一府の一生産に於て、遙に之を凌駕するに非ずや。即ち東北六縣合計七億七千萬圓なるに、東京の十億二千萬圓、大阪の十二億三千万圓に及ばざる遙に遠きものあるを。之最近喧しき軍需景氣が、大都市のみを潤しつつあるをば、數字は無言裡に裏書せるに非ずして何ぞ。

【青森縣】

セメント	三百九十六萬三千圓	製材	三百十五萬二千圓
清酒	百九十八萬一千圓	罐詰	百八十四萬二千圓
印刷	八十五萬五千圓	鑄物以外ノ金屬製品	六十八萬四千圓
木製品	五十九萬九千圓	醬油	四十四萬圓
味噌	二十六萬五千圓	藥品	二十一萬六千圓
織物	十七萬七千圓	氷	十一萬四千圓
製絲	四百八十二萬圓	金屬精鍊及材料品	三百七十五萬四千圓
清酒	二百八十八萬一千圓	製材	七十六萬一千圓
菓子	四十萬一千圓	製綿	三十六萬七千圓

印刷	三十一萬七千圓	紙製	十一萬二千圓
工業藥品	十一萬圓	醬油	二十六萬八千圓
乳製品	十九萬七千圓	木製品	十七萬五千圓
製冰	十二萬五千圓	鑄物	十一萬四千圓
製絲	三百三十六萬圓	清酒	三百八萬八千圓
紡績	二百萬圓	麥酒	百五十七萬七千圓
織物	百五十三萬八千圓	製材	九十二萬圓
菓子	八十七萬四千圓	醬油	八十四萬五千圓
菓子	五十三萬五千圓	製冰	四十八萬七千圓
罐詰	三十六萬七千圓	紙製	三十萬一千圓
木製品	二十萬八千圓	製綿	十九萬五千圓
船舶	十九萬圓	味噌	十八萬五千圓
金屬精鍊及材料品	十七萬八千圓	ゴム製品	十三萬五千圓
製材	九百五十二萬一千圓	清酒	六百二十三萬八千圓
鑛油	百二十六萬一千圓	木製	七十九萬四千圓
探鑛選鑛及精鍊機械器具	四十七萬二千圓	印刷	五十四萬八千圓
醬油	四十七萬二千圓	製絲	四十一萬圓
織物	十九萬一千圓	味噌	十七萬五千圓

「宮城縣」

「秋田縣」

「山形縣」

酒粕	十二萬圓	清酒	五百四十七萬四千圓
織物	六百八十八萬八千圓	印刷	七十萬七千圓
製絲	百四十五萬九千圓	醬油	三十六萬一千圓
製材	四十一萬一千圓	金屬精鍊及材料品	二十一萬一千圓
木製品	二十四萬五千圓	酒粕	十八萬一千圓
菓子	十九萬圓	紡績	六百四十五萬一千圓
罐詰	十三萬圓	セメント	百八十六萬六千圓
製絲	一千九十四萬八千圓	金屬精鍊及材料品	八十二萬二千圓
織物	五百八十四萬九千圓	工業藥品	六十四萬圓
清酒	百六十一萬圓	印刷	三十萬五千圓
亞鉛	四十萬一千圓	木製品	十五萬四千圓
製材	三十六萬九千圓	製冰	十一萬四千圓
鑄物	十九萬九千圓		
煉瓦及耐火物	十二萬三千圓		

昭和七年各道府縣各種生產額

山梨	長野	岐阜	静岡	愛知	三重	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山	鳥取	島根	岡山	廣島	山口	徳島	香川	愛媛	
35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15
1,300	73,925	53,666	65,410	52,489	33,321	42,101	52,847	82,433	27,866	26,320	26,404	52,355	72,569	57,300	46,669	32,746	32,335	32,335	49,777	
47	14	25	7	11	2	19	27	11	3	5	38	39	45	37	18	8	24	46	20	32
2,760	1,059	9,566	2,333	1,148	2,133	1,148	5,552	4,732	9,056	5,348	1,544	5,085	4,385	7,462	3,073	6,730	10,033	9,466	2,286	2,286
46	40	42	3	9	10	38	23	28	15	43	21	37	26	29	19	2	20	11	13	13
4,968	4,968	5,735	7,303	2,100	5,551	2,026	6,377	1,563	6,477	4,021	1,991	2,569	5,335	5,308	4,758	5,714	2,653	4,825	4,825	4,825
21	22	13	38	15	38	47	39	43	11	27	3	36	17	16	25	14	35	46	46	24
6,000	5,677	3,566	3,102	1,557	3,055	3,055	3,055	3,055	3,055	3,055	3,055	3,055	3,055	3,055	3,055	3,055	3,055	3,055	3,055	3,055
34	37	15	16	22	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15
4,835	1,387,676	1,294,666	1,620,000	825,524	1,011,111	1,011,111	1,011,111	1,011,111	1,011,111	1,011,111	1,011,111	1,011,111	1,011,111	1,011,111	1,011,111	1,011,111	1,011,111	1,011,111	1,011,111	1,011,111
34	15	12	8	24	4	8	12	17	17	24	1	7	36	13	9	11	38	45	28	22

北海道	青森	岩手	宮城	福島	秋田	山形	新潟	富山	石川	福井	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	東京	神奈川
14	35	28	20	13	26	19	2	33	43	45	4	15	22	12	8	46	38
23,830	25,071	27,866	50,886	42,330	52,970	42,330	42,330	35,569	32,806	24,806	80,826	57,450	46,379	25,283	72,000	32,155	30,559
4	33	30	35	17	36	44	22	43	40	41	15	26	16	13	12	1	6
1,050	2,286	2,286	1,926	3,678	1,893	1,456	2,815	1,461	1,574	1,574	4,148	2,700	3,800	6,000	6,100	1,615	8,661
1	12	8	6	31	39	31	6	31	31	31	22	44	44	45	7	5	14
2,760	9,466	12,866	15,053	3,678	1,456	966	3,250	4,868	4,148	2,527	5,326	4,350	3,600	1,600	2,461	1,615	9,363
2	12	6	6	31	39	31	6	31	31	31	22	44	44	45	7	5	14
15,968	15,968	15,968	15,968	15,968	15,968	15,968	15,968	15,968	15,968	15,968	15,968	15,968	15,968	15,968	15,968	15,968	15,968
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
1,387,676	1,387,676	1,387,676	1,387,676	1,387,676	1,387,676	1,387,676	1,387,676	1,387,676	1,387,676	1,387,676	1,387,676	1,387,676	1,387,676	1,387,676	1,387,676	1,387,676	1,387,676
10	41	44	44	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30

山形	新山	富山	石川	福井	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	東京	神奈	山梨	長野	岐阜	静岡	愛知	三重	滋賀	京都
20	4	30	41	45	5	19	16	10	12	46	40	36	40	15	13	21	29	38	
1,268	105,159	1,588	34,434	30,037	4,833	7,103	8,090	8,599	3,075	3,075	3,075	3,075	3,075	3,075	3,075	3,075	3,075	3,075	3,075
1,344	2,990	1,588	1,919	1,499	4,361	2,977	3,388	7,035	6,531	19,052	9,811	1,355	9,811	2,808	9,326	3,075	2,766	6,829	1,244
41	24	44	38	46	25	44	45	47	5	7	18	46	40	42	2	11	10	39	38
1,134	3,433	4,933	5,760	2,755	6,283	4,010	4,010	1,840	1,840	14,877	8,497	333	6,426	9,660	7,455	8,005	7,145	1,455	1,699
28	33	28	24	34	23	24	24	47	32	40	45	16	18	11	10	38	42	37	22
8,999	8,400	2,505	3,950	3,143	5,590	4,010	4,010	2,500	3,900	2,495	1,527	6,426	1,527	7,455	8,005	2,709	7,145	2,399	5,673
28	9	39	31	36	24	24	29	41	41	40	45	16	45	11	10	38	42	41	42
1,134	3,433	4,933	5,760	2,755	6,283	4,010	4,010	1,840	1,840	14,877	8,497	333	6,426	9,660	7,455	8,005	7,145	1,455	1,699
27	4	19	24	42	10	12	12	29	29	46	47	35	33	16	17	23	36	41	38
6,335	1,883	3,433	10,141	13,991	5,053	12,095	13,991	7,038	13,991	1,393,866	77,038	4,850	8,577	13,576	22,056	8,067	15,867	2,796	2,949
36	21	19	25	17	34	23	17	20	20	2	27	37	5	14	8	4	15	24	7

昭和八年各道府縣各種生産額

北海道	青森	岩手	宮城	關東	秋田	高知	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿兒	沖繩
1	28	25	18	8	24	44	5	27	34	9	24	30	10	47
1,440,335	4,631	4,631	4,631	8,337	5,550	77,035	39,452	35,167	5,167	71,305	45,180	36,540	68,381	19,339
1,335,335	2,558	2,558	2,558	4,361	2,990	68,381	1,933	2,766	2,766	3,075	2,588	2,588	7,035	2,335
1	32	28	34	16	35	42	10	34	23	21	29	28	9	31
1,500	10,141	13,991	13,991	4,010	2,766	8,333	8,333	3,766	1,833	3,870	5,155	5,155	8,333	2,078
1	14	9	6	31	37	17	33	4	33	4	25	24	16	36
1,500	7,350	2,399	2,399	4,010	1,709	3,433	3,433	1,833	3,433	5,155	5,155	5,155	8,333	2,078
1	12	5	30	8	2	7	45	29	45	18	19	5	4	42
2,500	7,350	2,399	2,399	4,010	1,709	3,433	3,433	1,833	3,433	5,155	5,155	5,155	8,333	2,078
2	43	5	22	9	3	1	14	7	14	13	5	20	17	40
5,270	3,822	3,822	3,822	4,010	1,709	3,433	3,433	1,833	3,433	5,155	5,155	5,155	8,333	2,078
1	10	40	44	29	47	38	6	29	39	26	32	43	37	46
1,500	3,433	3,433	3,433	4,010	1,709	3,433	3,433	1,833	3,433	5,155	5,155	5,155	8,333	2,078

大	兵	奈	和	鳥	島	網	廣	山	德	香	愛	高	福	佐	長	熊	大	宮	鹿
阪	庫	良	歌	取	根	山	島	口	島	川	媛	知	岡	賀	崎	本	分	崎	島
四三、四二五	九、四六一	三、九五	二、〇八	二、〇二	二、一七	八、七六	六、七四	四、〇三	二、七六	四、〇九	二、四一	三、一九	八、一四〇	四、五三一	四、四八	八、一六	二、六五	二、三六	七、〇八
31	6	44	42	39	33	11	17	26	37	34	22	43	7	27	35	9	23	32	14
二、三六二	一、七二	一、八三	一、七四	一、五八	一、九八	四、〇七	七、七九	三、三三	一、五四	三、八一	二、四三	一、六五	七、〇七	一、九三	三、二八	三、三	二、九九	二、七五	七、三五
4	5	39	40	43	37	17	8	23	45	18	33	41	10	36	22	20	31	30	9
五、八六九	九、〇九三	六、三〇	六、三〇	一、七〇	五、五八	四、四五	七、九八	三、八四八	七、七九	一、〇七四	二、五三	八、一五六	一、四六五	四、〇六	三、〇六	四、七〇	五、二八	五、七〇九	九、八〇八
23	17	43	21	36	26	30	19	3	20	13	12	16	6	8	32	4	29	27	25
一、六七	六、七三	四、九六	一、三三	二、七四	五、七〇	六、〇八	五、三八〇	六、七九	三、六五	七、二	五、五三	九、三五	三、五二	一、三三	三、七六	五、八〇	五、九六	一、三、四五	一、四三四
44	17	27	3	37	21	15	26	14	34	47	25	7	9	35	46	33	20	19	4
七、〇	七、一〇	三、五八	一、四一	八、六一	一、四七	三、四五七	九、三	二、三三	九、九	六、九	一、六、九〇	一、〇七	二、三、九七	六、五二	一、八、三五	七、三三	一、九、〇三	三、五八	三、八七七
39	14	44	26	34	45	21	32	11	30	40	8	28	1	15	7	13	6	20	18
一、五七、五三	八、三、二九	五、七、四	一、五、六四	一、八、三三	四、〇、五〇	一、七、九、九	一、七、四、五	一、五、三、〇	四、〇、〇八	七、一、三五	二、八、二、四九	三、六、七、四	三、三、五、九九	五、九、二	五、四、八七	八、八、七、四	五、四、〇、七	四、〇、四、五	四、七、九、五
1	3	33	12	46	38	9	11	13	30	28	22	43	6	39	32	26	31	41	35

二、保健衛生に關する調査

雪國地方には開業醫なき町村數頗る多し。福島縣の如きは五十五・七パーセント即ち全町村の半數以上は一人の醫師も居らざる町村なり。醫術の進歩は世界に冠たるを誇る我が國も、醫師の最も必要なる山間部にして交通不便、しかも生活窮乏の土地には、病氣に罹るも手を差し伸ぶるを發見する能はず。古來「醫は仁術」なりと云はれながら、醫師は死亡届を出す際に御手数相煩はすのみと觀念し居るもの決して少しとせず。現に醫療費のために先祖傳來の田畑を賣り、莫大の借金を作りたりと云ふ者も屢々見聞する所なり。悲しき矛盾と云ふべし。

人生るれば直に醫師又は産婆の厄介となる「オギヤ」と云はゞ十圓は消ゆ」と云ふは虚言に非ず。死して亦然り。然るに生れて直ちに死に、死したるまゝ生まる等の、乳兒死亡、死産の數は雪國に頗る多し。これ出産數多きに對比するなり。死亡と云ひ出生といふ、いづれも經濟上の負擔ならざるなし。しかも醫師なく産婆なきの僻村に於て、他よりそれを招かんか、尋常一様の經費にては追付くものに非ず。

(一) 醫師、出生、死亡

(内務省衛生局調査)

北海道	ナキ	全村百ニ付	人口千ニ付	人口千ニ付	人口千ニ付	出生百ニ付
	村	割合	出生	産	死亡	乳兒死亡
三	五、九	三、〇	一、空	一、六、八	一、三、四	

沖	二〇、八六	二、七九	二、三〇	一、六五	九、三	三、〇、九
繩	47	27	35	43	31	45

長崎	二	二、八	三、七	一、元	一九、五	一、五
熊本	九	三、六	三、五〇	一、〇〇	一九、六四	九、九
大分	英	三、七	三、八三	一、英	二、英	一、八
宮崎	七	九、一	三、八八	一、三三	一、七、八〇	一〇、〇
鹿兒島	一四	一、三三	三、四八	一、三一	一、七、六七	九、七
沖繩	三	三、〇	三、三八	一〇、一	一、六、七五	六、〇

二六

(二) 死亡原因

雪國地方は腸チブス、チフテリアに罹りて死亡する者多く、呼吸器疾患及先天的弱質の者も亦少なからず。次表は内務省衛生局の調査せるものにして、此の傾向は明瞭に統計上立證せらるゝ所なり。其の何が故に然るかは、將來大いに研究を重ね、對策を講ずるの必要ありと信ず。

陸軍省發表の統計に見れば、毎年の壯丁検査に現はるゝ成績は智力に於ても、体格に於ても、斷じて暖國地方の壯丁に劣るものに非ず。殊に一朝有事に際會せる場合に於て、戰場に馳驅せる其の活躍振りが、斷然東北健兒が偉彩を放てるの事實は、彼の滿洲事變にて既に天下萬民衆口一致の定論となり居れり。然るにかゝる優秀なる体格の所有者も、壯年にして病死し、あたらず爲の材を十分に發揮するなくして止む者少なからず。之人物經濟上國家の一大損失なりと云ふべし。

而して死亡原因には非ざれども、トラホーム其の他眼病患者の頗る多きは、小學校兒童の調査に於ても、壯丁検査の成績に於ても、明白に看取せらるゝ所にして、其の原因の雪害なりや否やは暫く之を問はず、吾人の大いに注目せざるべからざる所なりとす。

人口壹萬に對する死亡

北海道	青森	岩手	宮城	福島	秋田	山形	新潟	富山	石川	福井	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉
赤痢	〇、四八	〇、四七	一、一七	一、一〇	〇、六八	〇、六六	〇、三三	〇、三三	〇、三三	〇、三三	〇、三三	〇、三三	〇、三三	〇、三三	〇、三三
疫痢	〇、六六	〇、六六	〇、六六	〇、六六	〇、六六	〇、六六	〇、六六	〇、六六	〇、六六	〇、六六	〇、六六	〇、六六	〇、六六	〇、六六	〇、六六
腸チブ	六、三〇	五、三三	六、六六	六、六六	五、三三	五、三三	六、六六	六、六六	六、六六	六、六六	六、六六	六、六六	六、六六	六、六六	六、六六
チフテ	八、三三	四、三三	四、三三	四、三三	四、三三	四、三三	四、三三	四、三三	四、三三	四、三三	四、三三	四、三三	四、三三	四、三三	四、三三
呼吸器疾患	三、三三	三、三三	三、三三	三、三三	三、三三	三、三三	三、三三	三、三三	三、三三	三、三三	三、三三	三、三三	三、三三	三、三三	三、三三
麻疹	二、二二	二、二二	二、二二	二、二二	二、二二	二、二二	二、二二	二、二二	二、二二	二、二二	二、二二	二、二二	二、二二	二、二二	二、二二
畸形及先天的弱質	八、三三	八、三三	八、三三	八、三三	八、三三	八、三三	八、三三	八、三三	八、三三	八、三三	八、三三	八、三三	八、三三	八、三三	八、三三
百日咳	一、一	一、一	一、一	一、一	一、一	一、一	一、一	一、一	一、一	一、一	一、一	一、一	一、一	一、一	一、一

二七

東京	一六、八	九、四八	七、五二	六、九三	一七、七	〇、三	六、九	一、八
神奈川	五、〇七	三、〇四	六、七八	六、三九	一九、五	〇、一	七、五	一、二
山梨	〇、六四	〇、四九	四、三五	一、六二	二四、四	〇、五	七、四	一、八
長野	〇、三八	〇、四	三、八九	三、三九	一九、五	〇、七	七、四	〇、九
岐阜	五、〇五	三、三二	三、六〇	一、〇九	三六、二	二、三	七、四	一、〇
静岡	九、〇五	五、四四	四、八二	二、四〇	三三、四	一、〇	九、七	二、二
愛知	三、〇七	二、三〇	七、七九	一、九九	二七、一	二、二	九、五	一、六
三重	二、三四	一、八七	四、一一	三、〇八	二八、八	〇、七	一〇、六	一、一
滋賀	一、六五	〇、四〇	四、〇四	二、四一	二〇、八	〇、二	一〇、四	〇、九
京都	八、九九	五、九二	八、七〇	四、六六	二〇、三	〇、一	八、七	一、六
大阪	八、六二	四、〇八	八、二二	四、四六	一九、五	〇、三	八、六	一、一
兵庫	四、八九	一、七八	六、八一	二、〇一	三三、〇	〇、五	九、三	〇、八
奈良	〇、五三	〇、七	四、一九	二、〇〇	二〇、一	〇、六	一三、七	〇、七
和歌山	〇、八〇	〇、三九	五、二九	二、〇三	二〇、一	〇、二	八、六	〇、四
鳥取	一、二六	〇、四五	五、三六	一、三四	一九、六	一、九	九、九	〇、九
島根	二、六五	一、八二	二、九	一、四四	二七、五	〇、一	一一、四	一、八
岡山	二、〇〇	一、〇四	二、六六	一、三三	二二、七	〇、四	一三、六	〇、八
広島	三、六四	一、七六	九、三五	〇、七	三五、五	〇、八	九、三	〇、八
山口	七、六七	四、〇六	三、九一	三、〇一	三五、九	〇、八	七、二	〇、七
徳島	九、七三	四、三七	四、〇六	〇、六二	二七、九	〇、二	一一、一	〇、三

香川	六、三三	三、四二	七、七九	一、三四	七、一	〇、八	一一、二	〇、九
愛媛	二、〇八	一、五四	五、〇三	一、七六	二六、一	〇、八	九、四	一、三
高知	三、六五	二、七六	五、五一	一、六四	四、〇	〇、三	一一、六	〇、六
福岡	三、一八	二、〇〇	六、〇五	一、六六	二九、四	〇、六	九、〇	〇、九
佐賀	〇、六九	〇、五二	二、二二	〇、四	三三、九	一、九	二四、三	〇、九
長崎	三、八三	二、五七	一、六、四二	一、五一	三二、六	一、八	八、二	〇、八
熊本	六、七	三、六〇	五、三五	〇、三三	二八、六	〇、九	七、三	〇、七
大分	二、〇八	一、三二	三、七九	〇、三八	二九、一	〇、一	一〇、六	〇、六
宮崎	二、〇八	一、五五	一、四七	一、五四	二四、八	〇、三	七、一	〇、八
鹿児島	一、九六	〇、六	一、八一	〇、四	二六、九	〇、三	五、三	一、一
沖縄	—	—	〇、九	〇、七	二四、八	一、〇	二、〇	五、〇

(三) 農村住宅

雪國地方の農村住宅が、驚くべく不良、不衛生なるは贅言を要せず。通風、採光、其他各室の配置に於て、不合理極まるも亦多辯を費さずして明瞭なり。之が改善問題は焦眉の急なるを叫ばれながら、僅かに改善の片鱗をすら發見する能はず。蓋し住宅の如きは新築の場合を除き、到底根本なる理想は實施し難くして、長年月の間に徐々に改善工夫を施すの止むなきにあり。昭和九年十月青森縣廳衛生課が全縣下に亘り調査したる農村住宅状況を左に掲ぐべし。以て如何に不良にして病魔の巢窟といふも過言ならざる状態にあるかを察知し得べし。

警察署別	全戸数	城立 家屋	寝室ノ窓 開閉出米 ザルモノ	萬年床 ト稱ス ルモノ	臺所ト既 ト隣接シ アルモノ	小便所ノ 設置ナキ モノ	煙出ノナ キモノ	床板ヲ 敷カザ ルモノ	再 掘立ニシテ 萬年床ノモノ 所ナキモノ	掘 煙出ト小便 所ナキモノ
青森	八、二六	一五	三、三〇	四、六七	一、四三	五八	一、七四	一七	三七	三六
小湊	一、八六	三	三、七	一、二六	四九	六〇	三九	三	三	六四
蟹田	三、七二	四	六、六	一、三三	三五	六八	七〇	一〇	三	一六
鯉ヶ澤	五、八八	一〇	一、八八	二、五五	四九	一、三三	一、四六	六	二八〇	七
木造	六、九八	七	二、四七	二、九六	一、四一	五二	五四	九	一	七二
弘前	一〇、八五	一五	四、五二	六、五〇	一、三六	五四	三、〇九	二六	五	一九
黒石	一三、五六	一四	三、七四	六、三	一、四七	五九〇	二、七	二八	二五	九〇
浪岡	三、九六	八	一、五〇	二、六八	五九	八〇	一、三	一〇	八	六六
大鰐	三、九四	四	五、四	一、四〇	五九	一三	一三	三	六	三
五所川原	四、七二	七	一、三四	三、四八	三	四二	一、〇七	六	五	三九
金木	五、四八	二七	一、八九	三、二八	三二	三七	九	二四	三	二七
板柳	三、五六	四〇	五、六	一、三九	五九	二八	七	七	三	九
野邊地	四、九七	五	一、五九	二、五二	一、九八	八〇	九	三	五	六
七本木	四、七五	三	一、八四	二、四八	二、五九	一、九五	一、六八	四	一	一
三名木	八、七四	二九	三、八五	三、〇〇	三、二二	九三	一、六九	七	七	一〇
田名部	六、七〇	三九	四、二	六、一	五四	七九	一、六	二	二	二
大名間	二、〇一	六	六、六	三	三	五四	二六	一	一	一〇
八戸	七、八〇	三〇	三、三	三、〇九	四、六	三三	一、九〇	三	二	四

三戸	五戸	計	全戸數對百分比
五、八六	四、三三	一、六、四七	一、六
一〇九	二、三三	三、九〇	三、七
三、四七	二、五五	五、九二	五、七
三、一五	二、五五	五、七〇	五、五
二、四三	二、三六	四、七九	四、六
一、六一	四、九	六、〇	五、八
二、三	四、九	七、二	七、〇
二、七	一、一	三、八	三、七
一〇九	一、七	一、一六	一、一

備考……青森市、弘前市、八戸市ヲ除ク

(四) 榮養問題

内務省衛生局に於て調査する所によれば「動物性の食品即ち肉類其他動物性の食品を攝取する量が極めて少く、獸肉生産の量が雪國地方に於ては一人當り一斤強であります、それに對しまして然らざる地方に於ては二斤半を算へる、又牛乳の搾取量は、雪國地方に於きましては七合ばかりでありますのに、雪害を蒙らざる地方に於ては、約一升であると云ふやうな状態でありまして、妊婦、産婦及乳兒の榮養が不十分であるといふことが云へるのではないかと思ふのでありまして、其の結果とも考へるのでありますが、乳兒死亡率が非常に高いのであります」と以て其の一斑を推知すべし。

三、租稅負擔に關する調査

租稅負擔は最も神聖なる國民の義務にして且つ名譽なり。然れ共兎角猜疑と不満とを伴ひ易し。之れ人情なり。されば爲政者は深く此の點に留意して、各階級を通じ、各地域を通じ、而して國民すべてに公平妥當を期し、苟くも貧富の間、農工商の間、甲地乙地の間等に於て

負擔に差等あらしむべからず。然るに近來稍々もすれば、負擔の過重を懸へ、賦課の不公平を叫び、諸種減稅案の提案を見る。吾人の「雪國地方に於ける地租法改正案」も其の一なり。蓋し行財政の根本的整理立直すと、租稅制度の再検討再樹立の機は、國家焦眉の急に到達せるが故なり。

從來租稅負擔は農村問題の擡頭につれて、農民と商工業者、農民と俸給生活者の間に於て、其の之を論議せられたり。即ち農民は商業者の約二倍、工業者の約三倍、俸給生活者の約三倍の苛重負擔にあれば、農民をしてかゝる桎梏より解放するを以て、農村問題解決への第一歩なりと絶叫せられたるものなり。由來農民は徳川時代にありて「生かさぬ様、殺さぬ様」を「權現様(家康)以來の掟」として治められ「五穀の値段を知らざるを以て良農とす」と云はれ「政治は依らしむべし、知らしむべからず」とせられたるが故に、遂に明治に至りても此の思想は爲政者に膠着して、稅負擔に於て農民に最も苛酷なるものあるは識者の等しく擧げする所なり。

然れ共贅を避けて吾人再び茲に之を云はず。特に吾人の云はんと欲するは、階級と職業の間に非ずして、全國各府縣を通じ、果して其の間に輕重の差等有りや無しやの問題なり。少くも東北、北陸、關東、關西、中國、四國、九州等の地域を比較する時、等しく公正を保持せられありやの問題之なりとす。之等の地域は天恵に明白なる區別あり。従つて各地域の住民は、其勞働に於て、其の收入に於て、同等なりと云ひ得べからず。こは前述の「生産額に關する調査」及後述の「耕地に關する調査」に於て既に明瞭なり。此の明瞭なる事實に對し、租稅制度は如何なる考慮を拂ひ、如何なる對策を以て臨めるや。此の理極めて單純なりと同様に、此の道極めて簡單なり。即ち天恵薄き地方に稅率を下ぐるか、稅額を少くすれば可なり、少くも適地適恰の租稅を決定すれば足る。

然るに現行租稅制度は、その著しく矛盾逆轉せるを悲しむ。表面的に負擔狀況のみを觀察すれば、均衡を得たるやに見ゆるも、其の負擔能力たる收入源に對比すれば、實に實に不公平の極にあり。吾人の大聲叱呼してその非を鳴らし、その改正を叫ばざるべからざる所以也。左に負擔額表を示し、而して生産額との比率を述べん。

(一) 租稅負擔の狀況

租稅負擔額表 (昭和六年度)

地方	國稅		府縣稅		市町村稅		合計	
	一戸當	一人當	一戸當	一人當	一戸當	一人當	一戸當	一人當
北海道	三、三六六	五、九八四	一、四〇六	二、四四三	三、九三四	五、〇五五	七、七二六	一三、四三三
青森	二、七六六	四、五八五	一、八二三	三、二一九	三、六四七	四、三三二	七、三七六	一〇、〇五二
岩手	三、三七三	三、八四四	一、六七一	二、七七七	三、三三八	四、三九一	六、三三〇	一〇、七二一
宮城	三、九〇五	四、六六六	一、九七四	三、一七一	三、七三三	四、三三三	七、五〇六	一三、〇三九
福島	三、三三六	四、五二一	一、九六三	三、三六九	三、〇八一	三、九六六	六、九八〇	一〇、九四六
秋田	四、一〇四	六、八二〇	一、九八〇	三、三三四	三、〇四五	四、九八三	九、一五八	一五、〇七〇
山形	四、二八八	六、七〇〇	二、三五四	三、六四四	二、七五四	四、四六七	九、二〇七	一四、七一九
東北平均	三、二四六	五、一五二	一、九六四	三、二三四	三、〇七九	四、三三七	七、六二六	一二、六八三
新潟	四、一六五	七、一三七	二、四〇九	四、一七四	三、〇四三	三、九七七	八、八三六	一五、三三八
富山	三、〇五九	六、〇七八	一、九三七	三、〇一一	三、〇一〇	四、〇八七	七、〇九六	一四、一八六
石川	三、二四九	六、〇六三	二、四九三	四、八二八	三、〇六六	五、六一六	八、五三四	一二、五〇九

東京大阪京都其他の大府縣は國稅の負擔額多く、東北地方の如き貧窮町村は地方稅の負擔額多し。内に巨萬の富を藏し年收數萬數十萬を算する富豪の負擔する國稅はさして苦痛を伴ふものに非ず、されど借金に首を縛られ年收辛ふじて三四百圓を上下する水呑百姓の負擔する地方稅は、たかゞ一圓なりとて四苦八苦なり。數字は無味乾燥なりとて漫然と看過せざらんことを。

和歌山	奈良	兵庫	大阪	京都	滋賀	三重	愛知	靜岡	岐阜	長野	山梨	神奈川	東京	千葉	埼玉	群馬	栃木	茨城	福井
二七,九三九	三七,一三五	九,六八五	八,五五六	七,〇三九	四〇,八六六	三五,三六〇	五九,三六一	三六,六三三	二六,三三一	二一,六七三	二五,八九四	五八,三七五	一〇三,三三八	三五,八三五	三三,〇六九	三四,九三二	三〇,四七三	一九,一五五	四一,七六六
五,七九三	七,三三〇	二,一四三	一八,四九五	一五,五五九	八,四八八	六,八六九	一三,三九九	四,七二〇	五,〇九三	四,〇二四	四,九一九	一,九五九	三,八三八	四,八八二	五,七七七	六,一八一	五,四八八	三,五八八	八,七三三
一七,八三〇	三三,六六六	三〇,七五四	三〇,二八四	二〇,六四四	三三,五六六	一九,三三〇	一八,八六八	一七,八三八	一九,八七〇	三〇,五五三	二〇,一三四	二〇,五三七	二〇,四二七	一八,五〇七	二三,一三三	一九,〇八七	二二,八〇六	一七,八一七	二二,三六〇
三,六九七	四,六八三	四,五五四	四,三八〇	四,二七〇	四,八八三	三,七三六	三,九三五	三,一五一	三,八四七	三,八〇七	三,八三三	四,〇八三	四,四八六	三,四九七	四,一六七	三,三九一	三,八七七	三,三三〇	四,六三三
一九,五三三	三六,三七七	三六,三三三	三三,九四四	三〇,〇八八	二四,七〇三	二二,一九九	三三,五五五	三五,六四二	三三,九九九	三五,一四四	一九,二五四	二七,九〇三	三,八九八	一八,一三三	三三,〇三七	二〇,五九八	二二,四〇三	二〇,六七一	三一,三五四
四,〇四八	五,一九四	五,五三三	七,一〇五	六,二二〇	五,一一八	六,二二〇	四,八九三	四,五九九	四,六六八	四,六六八	四,六六八	七,〇四九	七,〇〇九	三,四三五	三,六八九	三,八〇五	三,八〇五	三,八〇五	六,三三五
七,五三三	八,七〇八	八,七〇八	八,七〇八	七,二二八	七,二二八	七,二二八	七,二二八	七,二二八	七,二二八	七,二二八	七,二二八	七,二二八	七,二二八	七,二二八	七,二二八	七,二二八	七,二二八	七,二二八	七,二二八
一三,五三六	一七,二二七	一七,二二七	一七,二二七	一四,一九六	一四,一九六	一四,一九六	一四,一九六	一四,一九六	一四,一九六	一四,一九六	一四,一九六	一四,一九六	一四,一九六	一四,一九六	一四,一九六	一四,一九六	一四,一九六	一四,一九六	一四,一九六

鳥取	島根	岡山	広島	山口	徳島	香川	愛媛	高知	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄
二六,七六六	二八,〇四〇	三六,〇〇四	四,九六六	四,〇六一	三三,九九五	三〇,〇九九	三〇,五五二	二一,〇九四	六六,六八九	四三,六四一	三三,一九六	二七,三三三	三二,一六一	三二,三三三	二六,八三三	二九,九六四
四,九八八	五,八四四	七,五〇八	八,七六六	八,六六六	四,四六〇	六,〇七八	五,九八五	四,四七七	二,五三三	七,七三〇	四,五〇〇	四,九四九	六,〇三八	三,七七一	五,三八一	六,三〇八
二,三六三	三〇,二二六	一九,六六六	一九,〇八五	一七,八〇六	三三,八四八	一九,九三七	一九,四七七	一七,四七一	一七,八〇六	三,三七七	一九,八九一	一九,〇八五	一九,六六六	二二,一六四	一七,四六六	六,三二二
三,九二四	四,二二四	四,〇九九	三,九九七	三,八〇九	四,四三五	四,〇三一	三,八八六	三,六八三	三,八〇八	四,一三二	三,三三八	三,六六六	三,七七三	三,七七三	二,八九四	一,三〇八
二八,三三五	二四,九四五	三二,四九八	三二,四九八	三二,四九八	二五,三三三	二〇,二二〇	二五,五〇二	二七,七九八	三三,三六九	三三,三六九	三三,三六九	三六,六四四	三三,七四九	三三,四四五	二〇,二九五	二二,〇七七
五,二二五	五,一九九	四,六三三	四,七一一	五,三三五	四,六六六	四,〇八七	三,三六八	三,三三二	五,三三二	四,三三六	四,四〇一	四,八五一	四,四〇〇	四,四四六	三,九九六	二,三三二
七六,三三三	七三,〇一一	七六,二二八	八三,三九九	七三,〇八六	七三,〇八六	七〇,二〇六	五四,〇六七	一一四,六九一	一一四,六九一	八八,七九七	八八,七九七	七四,〇七四	七三,三〇八	六七,三六四	六一,六二三	四七,三五三
一四,〇四七	一五,二九七	一六,二九〇	一七,四〇四	一三,五九一	一四,一九六	一四,一九六	一四,五〇五	一一,五四一	一一,五四一	一一,五四一	一一,五四一	一一,五四一	一一,五四一	一一,五四一	一一,五四一	九,九四七

租稅負擔額表 (昭和七年度)

道	國稅		府縣稅		市町村稅		合計
	一戶當	一人當	一戶當	一人當	一戶當	一人當	
北海道	29,940	5,233	11,600	2,000	35,640	4,478	40,558
青森	30,977	3,400	18,743	3,100	33,395	3,688	41,555
岩手	18,101	2,922	16,065	2,840	32,679	3,648	38,845
宮城	26,333	4,474	19,047	3,008	36,983	4,363	43,355
福島	35,330	4,337	18,965	3,331	33,663	3,864	40,965
秋田	37,333	6,699	19,999	3,333	38,599	4,734	45,781
山形	40,955	6,884	21,843	3,515	38,024	4,508	48,781
東北平均	26,484	4,670	19,433	3,366	35,096	4,218	41,733
新潟	37,853	6,670	23,101	3,566	38,889	4,310	46,889
富山	38,588	5,434	23,016	4,442	37,557	5,330	45,187
石川	38,055	7,668	22,070	4,118	38,888	5,793	47,998
福井	34,947	7,533	21,499	3,700	33,301	4,769	39,777
茨城	18,839	3,477	17,533	3,336	20,199	3,700	25,222
栃木	39,933	5,352	21,184	3,718	30,641	3,633	37,997
群馬	33,380	5,933	18,530	3,269	20,528	3,640	27,338
埼玉	34,110	6,109	23,104	3,946	22,599	4,010	29,859

道	國稅		府縣稅		市町村稅		合計
	一戶當	一人當	一戶當	一人當	一戶當	一人當	
千葉	23,577	4,415	17,488	3,266	17,735	3,399	24,700
東京	97,399	23,198	26,778	3,800	28,670	6,540	38,707
神奈川	53,227	10,441	19,560	3,840	27,694	5,440	34,594
山梨	25,072	4,761	18,312	3,488	17,547	3,333	24,882
長野	21,547	3,953	19,770	3,667	15,141	3,333	21,441
岐阜	23,766	4,571	19,003	3,660	14,016	4,637	21,279
愛知	26,843	3,738	19,397	3,400	16,063	4,591	21,587
三重	33,083	11,298	17,911	3,663	14,504	5,066	27,544
滋賀	37,091	7,640	18,481	3,637	15,765	5,330	29,532
京都	68,533	14,374	19,968	4,199	30,890	6,697	42,684
大阪	80,555	17,440	21,968	4,380	36,669	6,697	49,763
兵庫	95,554	20,235	19,561	4,270	36,669	6,697	53,537
奈良	34,651	6,888	23,493	4,670	19,399	3,999	28,871
和歌山	25,335	5,333	17,443	3,603	13,399	3,109	21,951
鳥取	23,777	4,365	20,644	3,801	17,738	3,109	23,957
島根	23,200	4,033	19,697	3,989	13,399	3,395	21,493
岡山	33,561	6,988	23,493	4,670	19,399	3,999	28,871
廣島	37,683	8,444	19,177	3,989	13,399	3,395	25,366
山口	35,697	7,771	17,733	3,946	13,399	3,395	24,473

徳島	三、九六六	三、四九九	四、四七七	三六、三六二	四、八三九	七〇、六九五	一三、一七六
香川	五、五二四	三〇、四一九	四、一六	一九、九九一	四、〇三三	六七、七四	一三、六六三
愛媛	五、〇〇一	一八、九四四	三、五五一	二四、〇八〇	四、六四〇	六八、九四六	一三、三九三
高知	三、七八八	一六、九四九	三、六〇五	一三、九三九	二、七五四	四七、三九九	一〇、〇七五
福岡	一、二一八	一八、五三三	三、四九五	三、五七四	四、八三〇	一〇三、一〇一	一九、四三三
佐賀	六、六九九	三〇、四八三	三、六三六	二六、五八三	四、七〇六	八三、四七四	一四、六〇一
長崎	三、九三三	一六、四七七	二、八八三	三、四五六	四、四三三	六三、九三五	一一、四三九
熊本	四、三三五	一九、三三三	三、五〇六	三、三六五	四、六九九	六七、九六六	一三、三八〇
大分	五、〇七	一九、〇七〇	三、六九五	三、三六七	四、三八六	六七、七五	一三、〇八八
宮崎	三、四七七	二、四八八	三、八二七	四、三八八	四、三三三	六三、四〇三	一一、六四七
鹿児島	五、三三五	一四、一九	二、八三三	三、〇六六	四、三九九	六三、六三	一一、二〇九
沖縄	六、八〇八	六、〇三〇	一、三六四	一〇、四〇一	三、一八四	四八、八四五	一〇、三三六

(二) 生産額と負擔額との比較

負擔の輕重は財産又は所得と對比せざるべからず。然れ共財産又は所得の如きは、個人事情の蔭に隠れて其の眞實を把握すること不可能なり。されば便宜手段として内閣統計の農林、商工兩省統計より總生産額を算定し、それより一人當生産額を求め、それと一人當負擔額の割合を採れり。

東北地方の首位は最近數年間を通じて不動なり。中部及近畿地方が下位を譲らざると好一對なり。凡そ此の兩者は反對になりて誰か怪しむ者やあらん。されど事實は正しくその反對なり。奇怪といふに吝かならんや。實に現行租稅制度は奇怪至極なりと云はざるべからず。

財政學の定説に云ふ「國民收入の一割を超える租稅は惡稅なり。民力爲に衰へ、國力爲に減耗す」と。果して然りとすれば、東北地方の窮乏其の頂點に達し、空腹と借財を抱きて氣息奄々たるは、その責東北人にあるに非ずして、國家諸制度により重責ありと云ふべく、而も稅制は其最高に位すると云ふも過言ならざるべし。

一人當生産額と負擔 (昭和四年度)

北海道	生産額 三〇、四	租稅負擔額 一七、四元	同上下ノ割合 〇. 五七	順位 20
青森	一三〇	一六、三三	一五	3
岩手	一四一	一四、六九	一〇五	8
宮城	一三四	一七、三五	一〇三	4
福島	一四〇	一五、九三	一一〇	7
秋田	一五五	一九、三〇	一二〇	6
山形	一三〇	一九、七	一五〇	2
新潟	一五	八、六九	一三〇	6
富山	一〇一	三三、三六	一三〇	7
石川	一九五	三三、五九	一三〇	6
福井	一九三	三三、三三	一三〇	6
茨城	一四一	一四、〇八	九	12
栃木	一七、四	一六、四	三九	3
群馬	二六	一七、五九	一〇	6
埼玉	一四	一七、七	一〇	6
千葉	一五三	一五、三	一〇〇	11
東京	一五九	一五、三	一〇	1
神奈川	三三〇	二七、三	八	21
山梨	三六	二六、七	七	26
長野	三六	一八、四	五	26
岐阜	三五	一七、四	五	27
静岡	三二	一六、五	五	25
愛知	三六	三三、五	九	22
三重	三五	一九、四	六	25

愛知	靜岡	岐阜	長野	山梨	關東平均	神奈川	東京	千葉	埼玉	群馬	栃木	茨城	北陸平均	福井	石川	富山	新潟	東北平均	山形
三三	二七	三三	二七	二九	二〇	三〇	二九	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
二二,二六	二二,三〇	三三,五六	二二,四七	二二,四〇	二七,八四	二二,三四	二二,三四	二二,三四	二二,三四	二二,三四	二二,三四	二二,三四	二二,三四	二二,三四	二二,三四	二二,三四	二二,三四	二二,三四	二二,三四
7	37	29	35	36	6	1	44	27	33	34	46	13	8	15	18	22			

二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六
36	35	39	32	20	34	1	29	18	35	17	23	37	13	19	5	2			

四國平均	高知	愛媛	香川	徳島	中國平均	山口	廣島	岡山	島根	鳥取	近畿平均	和歌山	奈良	兵庫	大阪	京都	滋賀	三重	中部平均
二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七
二二,三三	二二,三六	二二,三五	二二,三六	二二,三六	二二,三六	二二,三六	二二,三六	二二,三六	二二,三六	二二,三六	二二,三六	二二,三六	二二,三六	二二,三六	二二,三六	二二,三六	二二,三六	二二,三六	二二,三六
45	23	24	28	11	12	16	19	26	30	14	2	3	4	9	12				

二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二
25	28	30	21	24	13	32	7	7	38	7	22	33	14	26	31				

四一

岩手	青森	北海道
八	三	二
一〇,七二	二,〇五	三,三三
47	41	31
二	一	一
18	3	27

一人當生産額と負擔

(昭和六年度)

秋田	福島	宮城
六	七	七
二五,〇七	二,八六	三,三三
20	43	38
二	一	一
4	12	6

徳島	山口	廣島	岡山	島根	鳥取	和歌山	奈良	兵庫	大阪	京都	滋賀
一六	二〇	一八	三三	一七	一七	三三	一七	三三	四四	三〇	二四
一九,四八	三〇,七三	一七,九	二二,七一	三〇,七一	一八,〇四	一七,九	一九,七四	三九,三	三七,五	三三,五	二四,〇
12	10	15	16	6	8	28	6	4	24	5	14

沖繩	鹿兒島	宮崎	大分	熊本	長崎	佐賀	福岡	高知	愛媛	香川
一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
一四,〇一	一四,〇一	一五,〇六	一七,〇〇	一六,三三	一四,三一	一九,三	三三,七	一五,七	一九,三八	二六,八
2	23	19	13	17	18	9	16	21	19	21

四〇

大分	熊本	長崎	佐賀	福岡
一五	一五	八	二二	一三
一四、一八〇	一三、四六一	一三、一九九	一六、〇九七	二、四二一
25	32	39	17	5
一三〇	一八	一四	一四	一三
17	18	10	11	16

一人當生産額と負擔

(昭和七年度)

石川	富山	新潟	山形	秋田	福島	宮城	岩手	青森	北海道
一五	一五	二二	一〇〇	一五	四	八	五	五	二〇
一七、五九九	一五、一八六	一四、五六一	一四、六〇七	一四、三〇五	二、四二一	二、七四四	九、一四四	一〇、三六八	二、五五五
8	14	15	16	18	41	34	46	45	38
一〇	八	一三	一四	一三	一三	一〇	六	一〇	六
16	31	7	3	6	12	9	23	16	36

長野	山梨	神奈川	東京	千葉	埼玉	群馬	栃木	茨城	福井
一三	一三	一三	一〇〇	一〇七	一五	一五	一六	一〇	二四
二、一五九	一、五五一	一九、七九	三、七五五	一一、〇〇〇	一五、〇〇〇	一五、八五五	二、五五五	一〇、四三三	一六、一〇三
33	39	6	1	42	21	27	30	43	12
一〇	六	六	一三	一三	一三	一〇	九	一〇	六
21	24	30	1	19	11	29	32	19	38

沖繩	九州平均	鹿児島	宮崎
六	一〇	八	六
九、四七七	一四、五二六	一三、三二一	一三、〇〇九
48	40	42	42
一四	一三	一四	一三
8	9	15	15

(三) 滞納の状況

租税の過重は滞納の原因となるや必然なり。固より滞納は重課のみが其の原因には非されども、重課が有力なる原因たることは否定し得べからず。

次表は國稅及府縣稅のみの滞納を示現するものなれども、市町村稅の滞納はより甚しきは容易に想像し得るところなり。遺憾ながら現今

岐阜	静岡	愛知	三重	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山	鳥取	島根	岡山	広島
一六	一六	二〇	一四	一四	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三
一三、八五五	一一、七三九	一〇、〇〇七	一四、一〇一	一七、五九九	二五、〇四四	二六、三三三	三〇、二五〇	一六、八七七	二二、八五五	三三、三三三	四一、一八七	四一、七五五	四〇、〇〇〇
28	36	5	19	9	4	3	2	10	29	24	20	13	5
一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
34	35	37	25	27	2	33	17	9	39	10	8	26	3

山口	徳島	香川	愛媛	高知	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖繩
一三	一三	一三	一四	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五
一六、六〇〇	一三、一五五	一三、六三三	一三、三九三	一〇、三七五	一九、四三三	一四、一〇一	一一、四二九	一一、三六〇	一三、〇八八	一一、六七七	一一、四〇七	一〇、三三六
11	25	22	23	7	17	40	39	26	37	31	44	44
一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
19	20	28	28	18	18	13	15	19	22	14	4	5

の統計を以てしては、その正確なる數字を把握し難きのみ。而して東北海地方にありては、府縣稅よりは國稅の滯納が、著しくその率高きは果して何を物語るものなりや。地主階級の窮迫と、延いてその没落過程の一證左には非ざるなきか。

租 稅 滯 納 表 (昭和六年度)

府 縣	國 稅		府 縣 稅	
	調定人員	滯納人員	調定人員	滯納人員
北海道	五九、四〇〇	八、七六六	一、五五、九三一	三、四、三九九
青 森	二四、四三五	九、三六六	八、八、九三三	一、六、四一九
岩 手	四一、六八一	二、三〇六	一、一、六、九三三	一、四、五、一五三
宮 城	五二、七七一	三、九九九	一、〇、二、八六一	三、三、七三三
福 島	一〇五、三六一	三、九一七	一、六、六、〇九三	三、五、三、九四
秋 田	四〇、七六八	二、八二一	一、〇、三、一〇九	四、四、四、九七
山 形	五〇、一七六	五、四四五	三、三、四、五九三	一、六、三、三九
新 潟	二九、八三九	九、九九	三、四、二、三九〇	九、〇、四、三五
富 山	三三、六三三	四、七	一、六、八、三三五	一、九、七、三三三
石 川	四四、三六八	三、六六	一、六、三、三六〇	一、四、五、三六三
福 井	四一、七三三	六	八、七、三、三六	三、〇、四、九五
茨 城	一〇四、六七七	一、八八四	二、七、三、六五五	一、〇、七、一五

同上比率 順位

府 縣	國 稅		府 縣 稅	
	調定人員	滯納人員	調定人員	滯納人員
栃 木	六、四四〇	一、五五五	一、三、四、五〇五	三、六、〇、五八
群 馬	六、八四四	六、四九	一、四、四、〇三三	三、五、〇、八二
埼 玉	八、七六〇	八、五	二、三、〇、九、六八	三、三、一、六三
千 葉	九、八六九	一、五、三	一、九、四、三、四七	一、四、六、三、九
東 京	二六、〇七	六、五	五、三、七、〇、九四	一、五、二、三、五五
神 奈 川	一、八、四三	一、〇、八二	一、八、三、三、四三	六、〇、一、三、七
山 梨	六、五五	五、一	七、八、四、二、八〇	七、五、三、八〇
長 野	四、四、四六	四、四〇一	二、〇、一、〇、九三	二、二、一、三、五五
岐 阜	七、〇九一	八、六	二、〇、三、三、四〇	一、一、一、二、八
靜 岡	六、一一一	一、〇、一一	二、四、五、三、三	四、〇、〇、八元
愛 知	七、七、七九	五、四	三、三、六、六、四	四、三、五、八、二
三 重	九、七、六六	七、六	一、八、三、七、七	四、九、七、四、六
滋 賀	五、九、一八	一、四	一、〇、二、一、七、七	三、四、〇、一、九
京 都	四、六、三、七〇	三、三	一、六、八、一、七、四七	四、〇、〇、四、九
大 阪	三、三、八八	三、九	三、三、九、五、〇六	九、三、九、六
兵 庫	九、三、四八	二、四八	二、七、〇、四、三	六、三、三、七
奈 良	三、六、六九	一、四	五、八、八、六二	九、八、〇、七
和 歌 山	四、〇、四、七七	七、四	一、〇、五、三、六	三、〇、一、一、九
鳥 取	二、九、三、〇三	三、六	七、二、一、三、四	二、七、二、八二
島 根	六、〇、八、八元	三、三	一、一、九、九、三三	三、三、一、一、五

都府縣	國				府			
	調定人員	滞納人員	同上一比率	順位	調定人員	滞納人員	同上一比率	順位
北海道	七四、六三	七、七六	一〇三	1	一、五〇、四八九	三三、三〇二	二二	27
青森	二四、〇〇	九七四	四〇	6	九六、〇三	一一〇、一八九	一一	33
岩手	五〇、九二六	二、三三三	四	5	一、四三、〇三	一六、一四九	一四	28
宮城	四三、〇七	三、五七五	九	3	一、二七、九七	三、四九、一三三	三〇	16
福島	一〇五、三三	三、五四三	三	8	一、六三〇、六八	二七〇、七七六	一六	26
秋田	四一、三三	三、八八九	五	2	九七、九〇	五八、三九〇	五二	1
山形	四九、八四三	七〇	四	18	一、九三、七四	二、六三、八九	一六	31
新潟	一三三、〇七八	九三六	七	24	一、〇六、八七八	一、〇六、八七八	一〇	5
富山	二九、六六六	五	一	30	一、七六、七五	一八〇、七五	一〇	36
石川	四三、八七三	二八〇	六	25	一、四三、五〇	一六三、九三	一一	35
福井	五九、〇九	二	〇、五	31	八六、九三	七六、二七	八	38
茨城	一三三、四八	一、三四九	二	20	二、六〇、四三	一一〇、九三	四	43
栃木	七三、三六	二、三九	九	11	一、三三、四一	二九、五三六	二八	17
群馬	七三、三四七	一、一六	六	17	一、四六、三四	三三〇、九〇	三三	15
埼玉	一〇三、三〇	七九	七	24	一、三三〇、八七	二六、五二八	二二	34
千葉	九八、八四一	一、四三	四	18	一、八二、六三	三六、〇七	二二	41
東京	三六、元九	八六〇	三	9	五、三六、五九	一、五四七、四四	元	45
神奈川	五三、六〇三	九八	六	17	一、七五、四九九	五、四九、八四〇	三二	6

四七

租稅滞納表 (昭和七年度)

都府縣	調定人員	滞納人員	同上一比率	順位
岡山	八九、三〇八	四六	四	21
廣島	一四、〇五六	一六七	一	23
山口	九、五〇五	四八九	五	20
徳島	三三、三三六	四一	一〇	15
香川	三五、三三三	六一	二	22
愛媛	五七、三九九	九三〇	六	14
高知	三三、七〇	七四	三	11
福岡	一〇五、九七	九三	九	16
佐賀	四九、〇九九	三六	七	18
長崎	五三、五二	九六	八	12
熊本	八五、九四	一、九六	三	10
大分	九五、〇二	一、六元	七	13
宮崎	五五、六三	一、五〇四	七	8
鹿児島	二八、四九〇	七〇	五	20
沖縄	八、八八	八〇	九	2

四六

山梨	35,071	73	3	10	68,470	97,330	126	31
長野	34,850	4,966	5	4	2,036,153	406,394	300	20
岐阜	33,255	930	2	19	2,076,941	136,701	35	42
静岡	32,925	1,504	7	13	2,539,334	355,458	45	37
愛知	32,633	694	8	23	3,354,447	598,825	180	23
三重	32,440	547	6	25	1,873,533	544,633	274	9
滋賀	32,440	125	2	29	861,933	208,450	341	14
京都	32,440	321	5	26	1,677,621	475,403	265	8
大阪	32,355	194	6	25	3,377,153	1,155,646	37	3
兵庫	32,355	269	3	28	2,653,777	101,390	26	44
奈良	32,355	292	9	22	597,427	1,233,626	152	22
和歌山	32,355	35	1	30	1,060,348	195,322	184	22
鳥取	32,355	32	2	20	677,773	167,145	144	12
島根	32,355	82	4	18	1,205,523	300,482	25	11
岡山	32,355	35	4	27	1,935,435	153,360	29	40
広島	32,355	82	1	30	2,755,177	310,010	26	2
山口	32,355	14	1	30	2,355,923	187,155	6	29
徳島	32,355	35	10	21	1,041,788	257,494	44	13
香川	32,355	5	2	29	1,277,327	321,093	66	7
愛媛	32,355	94	6	17	1,555,328	491,653	26	4

四八

高知	32,355	68	30	15	1,094,627	1,143,355	130	30
福岡	32,355	1,335	6	17	2,699,333	76,628	269	10
佐賀	32,355	495	9	22	897,999	68,926	76	41
長崎	32,355	1,034	9	16	1,560,297	277,921	17	24
熊本	32,355	1,983	28	12	1,844,424	707,183	375	2
大分	32,355	1,778	23	14	1,323,340	163,835	133	32
宮崎	32,355	2,376	8	7	972,826	161,699	121	25
鹿児島	32,355	570	6	25	2,096,878	477,503	208	18
沖縄	32,355	86	6	25	644,627	121,124	203	19

四、農業氣象に關する調査

農業にとりて氣象は絶對的にして致命的關係にあり。經營や技術の問題は相對的關係にあるが故に、之が改善工夫に依り、或程度まで危險負擔の緩和を圖り得べしとするも、氣象のみは人力を以て如何とも左右し得べからざるなり。殊に雪國地方の農業は、丘陵且つ寒冷地帯に屬するが故に、氣象の影響を蒙むること敏感にして深刻なり。然るに農業氣象に關する調査は、極めて常識的にして非科學的の域を脱する能はず、爲に農民には殆んど活用せられざるの狀況にあり。

殊に稻作に最も大切たるべき、氣温、日照、降水量、天氣日數、降積雪關係の如き、測候所、農事試驗場、農會方面にありてすら、從來十分に連絡を保ちて相互利用をなしつゝありやは、蓋し頗る疑問たらざるを得ず。過去の豊凶年によりて、之が比較研究をなせるが如きは、

寡聞にして其の之を耳にせず。文明機關の發達と充實とは、調査に發表に、時々刻々いさゝかも不便澁滞を感ずるものにあらず、無線電信又はラヂオの利用により、目より口に、口より耳に、座して之が對應の方法を講ずるも亦難事にあらず、否頗る容易の業に屬す。然るに従來調査も發表も、極めて局部の事務的頑弄物に墮しつゝありしは惜しむべし。

因りて本協會は最近の豊凶各四年を取りて、農業に最も緊密なる關係を有する時期に於ける農業氣象を調査し、更に五ヶ年平均及昭和九年の調査を加へて、以て將來の参考に供さんとするものなり。

(一) 氣 溫 關 係

稲作に最も深き關係を有すと云はるゝ四月、六月、七月、八月に於ける氣温を次表に掲ぐ

四月に於ける平均氣温

大正九年	豊作	札幌	青森	水澤(岩手)	石巻(宮城)	秋田	山形	福島	計
同 十四年	豊作	六四	八〇	七八	八九	八八	九〇	一〇五	五九四
昭和二年	豊作	五〇	七一	七六	八四	七九	八一	九六	五三七
同 五年	凶作	六九	七〇	七二	八六	九二	九三	一〇七	五八九
明治卅五年	凶作	五七	六九	八〇	九二	八四	九八	一一一	五九一
同 卅八年	凶作	四三	六〇	七七	七八	七二	七六	八八	四九四
同 卅八年	凶作	二九	五四	五六	六七	七一	七〇	八一	四三八

大正二年	豊作	五七	八〇	九八	九七	八四	九六	一一〇	六三八
昭和六年	豊作	四三	五八	七七	七四	七三	七五	九三	四九五
同 八年	豊作	四三	五三	七八	八四	七八	八六	一〇〇	五二二
同 九年	凶作	四九	五六	六六	七一	七二	七三	八八	四七五
最近五ヶ年平均	平年作	五三	六四	七九	八四	八一	八五	一〇四	五五〇

六月に於ける平均氣温

大正九年	豊作	札幌	青森	水澤	石巻	秋田	山形	福島	計
同 十四年	豊作	一七〇	一七一	一七七	一七一	一八八	一九三	一九三	一九三
昭和二年	豊作	一四七	一六六	一七九	一六八	一六四	一九一	一九六	一九一
同 五年	豊作	一五三	一六五	一六五	一七九	一七八	一九二	一九〇	一九〇
明治卅五年	凶作	一三〇	一五一	一四一	一六八	一七二	一九〇	一九七	一九一
同 卅八年	凶作	一五〇	一五九	一五八	一七〇	一八七	一九五	一九一	一九一
大正二年	豊作	一三七	一五〇	一四六	一六一	一七一	一八三	一八六	一九〇
昭和六年	豊作	一三四	一四〇	一四八	一六四	一七一	一八二	一八〇	一九〇
同 八年	豊作	一五二	一八四	一八三	一七八	一八五	一九六	二〇一	一九九
同 九年	凶作	一六七	一七四	一八八	一八七	一九五	一九九	二〇一	一九八

最近五ヶ年平均

平年作 一四四

一五八

一七二

一六八

一七七

一八四

一九三

一九五

五二

七月に於ける平均気温

大正九年	豊作	札幌	二二・三	青森	二二・〇	水澤	二二・〇	石巻	二二・五	秋田	二二・四	山形	二二・〇	福島	二二・四	計	二二・六
同 十四年	"	"	一八・八	"	二〇・四	"	一九・五	"	二〇・一	"	二〇・〇	"	二〇・一	"	二〇・三	"	二〇・六
昭和二年	"	"	二〇・九	"	二二・五	"	二二・二	"	二二・八	"	二二・六	"	二二・六	"	二二・九	"	二二・五
同 五年	"	"	二〇・三	"	二二・二	"	二二・〇	"	二二・三	"	二二・一	"	二二・〇	"	二二・一	"	二二・五
明治卅五年	凶作	"	一六・四	"	一七・六	"	一六・九	"	一八・九	"	一九・五	"	二〇・三	"	二〇・一	"	二〇・八
同 卅八年	"	"	一八・五	"	二〇・三	"	一九・〇	"	一九・九	"	二〇・四	"	二〇・〇	"	二〇・二	"	二〇・八
大正二年	"	"	一六・八	"	一八・一	"	一七・三	"	一九・二	"	二〇・八	"	二二・〇	"	二二・六	"	二二・七
昭和六年	"	"	一六・〇	"	一七・四	"	一六・九	"	一九・八	"	一九・三	"	一九・九	"	二〇・六	"	二〇・九
同 八年	豊作	"	二二・四	"	二二・一	"	二二・七	"	二二・九	"	二二・一	"	二二・八	"	二二・〇	"	二二・〇
同 九年	凶作	"	一七・七	"	一九・〇	"	二〇・〇	"	一九・七	"	二〇・九	"	二二・六	"	二二・七	"	二二・六
最近五ヶ年平均	平年作	"	一九・八	"	二二・〇	"	二〇・七	"	二二・八	"	二二・六	"	二二・三	"	二二・九	"	二二・〇

八月に於ける平均気温

大正九年	豊作	札幌	二二・五	青森	二二・〇	水澤	二二・一	石巻	二二・九	秋田	二二・〇	山形	二二・九	福島	二二・四	計	二二・四
同 十四年	"	"	二二・五	"	二二・五	"	二二・六	"	二二・三	"	二二・〇	"	二二・七	"	二二・三	"	二二・八
昭和二年	"	"	二二・九	"	二二・九	"	二二・二	"	二二・一	"	二二・〇	"	二二・〇	"	二二・一	"	二二・三
同 五年	"	"	二二・二	"	二二・八	"	二二・〇	"	二二・七	"	二二・四	"	二二・六	"	二二・一	"	二二・八
明治卅五年	凶作	"	一七・八	"	一九・六	"	一八・四	"	二〇・〇	"	二二・三	"	二二・六	"	二二・一	"	二二・八
同 卅八年	"	"	一八・六	"	一九・八	"	一八・二	"	一九・二	"	二〇・四	"	二〇・三	"	二〇・一	"	二二・六
大正二年	"	"	一八・四	"	二〇・二	"	一九・一	"	二〇・四	"	二二・三	"	二二・三	"	二二・一	"	二二・八
昭和六年	"	"	二二・三	"	二二・八	"	二二・〇	"	二二・三	"	二二・九	"	二二・三	"	二二・五	"	二二・〇
同 八年	豊作	"	二二・八	"	二二・九	"	二二・六	"	二二・〇	"	二二・四	"	二二・三	"	二二・八	"	二二・九
同 九年	凶作	"	一九・六	"	二二・二	"	二二・三	"	二二・〇	"	二二・八	"	二二・四	"	二二・四	"	二二・七
最近五ヶ年平均	平年作	"	二二・九	"	二二・二	"	二二・八	"	二二・九	"	二二・六	"	二二・三	"	二二・二	"	二二・九

(二) 日照関係

稲作にとりて日照時数は六七月に於て特に大切なり。七八月の如き日照多ければ暑き程上作なりと云はる

六月に於ける日照時数

大正十四年	豊作	札幌	青森	水澤	石巻	秋田	山形	福島	計
昭和二年	豊作	札幌	青森	水澤	石巻	秋田	山形	福島	計
同五年	凶作	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明
明治卅五年	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明
同卅八年	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明
大正二年	豊作	札幌	青森	水澤	石巻	秋田	山形	福島	計
昭和六年	豊作	札幌	青森	水澤	石巻	秋田	山形	福島	計
同八年	豊作	札幌	青森	水澤	石巻	秋田	山形	福島	計
同九年	凶作	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明
最近五ヶ年平均	凶作	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明

七月に於ける日照時數

大正九年	札幌	青森	水澤	石巻	秋田	山形	福島	計
同十四年	札幌	青森	水澤	石巻	秋田	山形	福島	計
昭和二年	札幌	青森	水澤	石巻	秋田	山形	福島	計
同五年	札幌	青森	水澤	石巻	秋田	山形	福島	計

明治卅五年	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明
同卅八年	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明
大正二年	札幌	青森	水澤	石巻	秋田	山形	福島	計	
昭和六年	札幌	青森	水澤	石巻	秋田	山形	福島	計	
同八年	札幌	青森	水澤	石巻	秋田	山形	福島	計	
同九年	札幌	青森	水澤	石巻	秋田	山形	福島	計	
最近五ヶ年平均	札幌	青森	水澤	石巻	秋田	山形	福島	計	

八月に於ける日照時數

大正九年	札幌	青森	水澤	石巻	秋田	山形	福島	計
同十四年	札幌	青森	水澤	石巻	秋田	山形	福島	計
昭和二年	札幌	青森	水澤	石巻	秋田	山形	福島	計
同五年	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明
明治卅五年	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明
同卅八年	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明
大正二年	札幌	青森	水澤	石巻	秋田	山形	福島	計
昭和六年	札幌	青森	水澤	石巻	秋田	山形	福島	計

同 八年	一九、九	二四、四	一七、九	一九、八	三三、四	一九、三	一六、八	一三、八
同 九年	一八、三	一五、七	二二、六	一四、五	一五、七	一三、九	一五、八	一〇、三
最近五ヶ年平均	一九、三	二五、六	一五、〇	一九、七	二四、五	一九、九	一七、六	一三、四

(三) 降水量關係

五月に於ける降水量

大正 九年	札幌	一五、〇	青森	九、二	水澤	六、〇	石巻	一八、一	秋田	七、五	山形	一八、〇	福島	一五、八	計	八、六、六
同 十四年		五、三		六、七		六、九		八、九		九、五		一八、五		一〇、一		五、五、八
昭和 二年		六、九		八、〇		一七、七		一四、二		一三、三		九、三		四、七		七、三、九
同 五年		五、八		六、三		一三、三		一四、〇		一三、三		六、九		六、五		六、〇、〇
明治卅五年		不明		不明												
同 卅八年		不明		不明												
大正 二年		五、四		七、〇		七、九		一〇、三		六、七		六、七、九		八、八		五、一、〇
昭和 六年		二八、四		五、五		六、九		九、八		九、七		三、七		四、六		五、〇、六
同 八年		四、四		六、七		八、一		五、六		一四、一		五、六		六、七、〇		五、五、五
同 九年		三、七		九、一		一五、四		一三、二		一五、八		八、五		一三、五		八、四、九

最近五ヶ年平均	六、四	七、五	一八、四	二九、四	九、二	九、九	九、八	六、八	六、九、六
---------	-----	-----	------	------	-----	-----	-----	-----	-------

六月に於ける降水量

大正 二年	札幌	六、〇	青森	六、六	水澤	一四、六	石巻	一三、三	秋田	九、〇	山形	七、八	福島	一三、三	計	七、五、五
同 十四年		四、二		四、九		一六、五		二二、六		四、八		三、九		八、九		四、四、五
昭和 二年		二、七		九、七		四、〇		七、一		三、九		三、七		七、九		三、八、〇
同 五年		五、四		一三、七		一三、六		八、六		六、六		二、七		一〇、八		六、七、四
明治卅五年		不明		不明												
同 卅八年		不明		不明												
大正 二年		四、五		三〇、九		一五、七		一四、五		一七、五		九、一		一五、四		九、九、六
昭和 六年		一七、五		八七、〇		一三、六		一三、四		九、七		七、四		一三、三		七、五、九
同 八年		五、八		一〇、九		一三、一		七、九		一七、八		六、一		五、一		六、七、七
同 九年		五、一		六、六		一八、五		三、五		一八、七		二、七		九、二		八、三、三
最近五ヶ年平均		五、三		八、四		一七、五		九、五		八、三		六、九		一〇、八		六、二、七

八月に於ける降水量

古來雪は豊年の兆と云はる、然れ共幾多の統計は大雪の年、又は四月に入るも融雪遅く且屢々降雪を見る年は凶作なるを物語る

(五) 降雪日數

福島	山形	秋田	石巻	水澤	青森	札幌
九八年	九八年	九八年	九八年	九八年	九八年	九八年
五四	七四	四五	八四	四五	二五	〇一
二三	二四	六二	二五	四三	六三	八三
二三	四三	六四	五六	三六	二五	三二
三二	八三	七二	〇二	二二	三二	三一
六二	六一	七〇	〇四	〇二	二一	三三
二一	二一	三一	三二	三一	一一	一一
八四	七五	〇三	五一	三八	三六	七〇
計						

不照日數

福島	山形	秋田	石巻	水澤	青森	札幌
九八年	九八年	九八年	九八年	九八年	九八年	九八年
五五	四三	四三	五三	五二	九二	七七
四五	八二	九三	四八	八五	八九	〇九
五六	六二	二八	七六	八九	〇八	〇二
二六	六一	三一	六八	六六	八三	六四
八六	九一	〇一	一七	一九	七三	六五
八七	九五	一七	九八	九八	八六	七五
七八	三九	〇一	三二	五一	二五	九七
計						

曇天日數

福島	山形	秋田
九八年	九八年	九八年
五三	五二	〇一
四五	〇六	二六
五〇	三五	七一
五五	五七	八八
三五	二九	〇七
六六	五七	四七
二八	五九	六三

反當收量	出 穂	分 葉	草 丈	昭和八年		昭和九年	
				八月	八月	八月	八月
昭和八年	七、〇〇	七、〇〇	七、〇〇	七、〇〇	七、〇〇	七、〇〇	七、〇〇
昭和九年	七、〇〇	七、〇〇	七、〇〇	七、〇〇	七、〇〇	七、〇〇	七、〇〇
平 年	七、〇〇	七、〇〇	七、〇〇	七、〇〇	七、〇〇	七、〇〇	七、〇〇
昭和八年	七、〇〇	七、〇〇	七、〇〇	七、〇〇	七、〇〇	七、〇〇	七、〇〇
昭和九年	七、〇〇	七、〇〇	七、〇〇	七、〇〇	七、〇〇	七、〇〇	七、〇〇
平 年	七、〇〇	七、〇〇	七、〇〇	七、〇〇	七、〇〇	七、〇〇	七、〇〇

五、農家に關する調査

(一) 農家戸數及養蠶戸數

東北地方の主産業は農業にして、豊葦原瑞穂國の名稱は、東北地方に於て極めて代表的なり。従つて總戸數に比して農家最も多く、總人口に比して農業者最も多數を占むるも亦、決して怪しむに足らざらなり。而して他の商工業及労働者と雖も、全く土地に親しまず、農を生活の手段に供せざるものは、東北地方に關する限り殆んど絶無に近き状態にあり。内務省雪害対策調査會の調査に依る總戸數に對する農家戸數及養蠶戸數の、全國的比較を左に掲ぐ。

道府縣	農 家 戸 數			養 蠶 戸 數		
	總戸數	農家戸數	總戸數ニ對スル割合	總戸數	養蠶戸數	總戸數ニ對スル割合
北海道	五〇九、七五八	一七九、一八〇	三六、八	五〇九、七五八	三、一四一	〇、六二
青 森	一四八、三九二	八五、五三〇	五七、七	一四八、三九二	四、一三六	二、七九
岩 手	一六三、六九五	一〇九、九一八	六六、七	一六三、六九五	三、三六六	二、〇五
宮 城	一八七、六六二	一〇九、九一八	五八、四	一八七、六六二	三、六四八	一、九四
秋 田	一七九、〇五五	一〇九、九一八	六一、四	一七九、〇五五	二、六三六	一、四七
山 形	一七六、九八四	九九、〇〇〇	五六、〇	一七六、九八四	四、八五八	二、七四
福 島	二五三、九六九	一三九、〇五四	五四、八	二五三、九六九	八、八三三	三、四八
茨 城	二八二、二一〇	一八七、三六九	六六、四	二八二、二一〇	六、八四〇	二、四二
栃 木	二〇五、三三〇	一〇八、二七七	五二、七	二〇五、三三〇	二、八四〇	一、三八
群 馬	二一七、〇三三	一二七、九八四	五八、九	二一七、〇三三	八、二六八	三、八〇
埼 玉	二六五、三三三	一七二、一一一	六四、八	二六五、三三三	九、九四八	三、七五
千 葉	二八一、三三六	一五九、二一九	五九、六	二八一、三三六	七、五二七	二、八五
東 京	一、一三五、七七三	六〇、一九七	五、三	一、一三五、七七三	三、三七一	〇、二九
神 奈 川	三三三、一〇一	七七、九六九	二三、四	三三三、一〇一	二、八〇〇	〇、八四

新	湯	三〇三、四九	九六七	三	三〇、六七	六、九三	二、六六一	四
富	山	一五〇、六一	七、七七	五	一、六六	一四、五九	〇、六六	六
石	川	一五〇、八四	八、八五	五	一、五〇	二、三四〇	一、五九五	〇
福	井	一三八、〇八	七、〇五	三	一、八〇	一、四八三	一、三八四	三
山	梨	一三三、〇一	八三、八五	二	一、八七	五九、三三	四、六一八	一
長	野	三三、八七一	二、七三	九	三、七	一五、八八	四、六四	二
岐	早	三三、〇七一	三、七三	九	三、七	一五、八八	四、六四	二
靜	岡	三三、八七一	二、六八	七	三、七	五、七三	一、七〇	三
愛	知	五三、一〇六	一、九三	四	五、二	三、八	一、八五	三
三	重	三三、七〇六	一、三六	二	三、七	六、〇八	三、六九	一
滋	賀	一四七、六三	八、九	二	一、四七	二、〇七	一、三六	二
京	都	三三、三〇三	八、〇	四	三、八	三、七	〇、二	三
大	阪	七〇、八六	八、八	四	七、〇	一、一	〇、七	四
兵	庫	五三、九九	一、五	三	五、三	一、八	〇、七	四
奈	良	一〇〇、〇三	六、八	三	一、〇	一、八	一、七	三
和	山	一七、四五	八、五	六	一、七	三、八	一、七	三
島	取	九、七九	六、四	〇	九、七	三、八	一、七	三
島	根	一五、五八	一、六	四	一、五	四、八	一、七	三
岡	山	二七、九二	一、〇	五	二、七	四、二	一、七	三
廣	島	三六、八七	一、九	六	三、〇	三、九	一、八	三

七〇

山	口	三、四九、一八	二、四、八三	五、〇八	三、四九、一八	二、三、〇六	〇、九三	七
德	島	一、四四、五〇	八、七三	五、八五	一、四四、五〇	六、三六	三、六四	一
香	川	一、五〇、一五	八、〇	五、八三	一、五〇、一五	一、五、三	一、〇一〇	三
愛	媛	三、九、五〇	一、〇、八六	五、四三	三、九、五〇	五、三三	一、〇九	〇
高	知	一、五三、九七	八、〇、九二	五、四七	一、五三、九七	五、三三	一、〇九	〇
福	岡	四、六、四七	一、五、〇、三三	五、〇、八	四、六、四七	三、四、九	一、六九七	四
佐	賀	一、八、七、三八	七、〇、四一	五、〇、七	一、八、七、三八	三、三、三九	一、三、三三	五
長	崎	二、四、五、四七	一、〇、六、七〇	四、一、七	二、四、五、四七	三、四、二	一、三、三三	六
熊	本	三、六、三、五	一、四、三、八五	五、五、三	三、六、三、五	六、五、三三	一、五、四一	七
大	分	一、九、〇、三六	一、四、〇、〇七	六、五、六	一、九、〇、三六	四、八、四〇	一、五、四一	八
宮	崎	一、四、八、〇六	八、〇、八七	五、四、六	一、四、八、〇六	四、五、九七	一、〇、七〇	九
鹿	島	三、三、〇、八八	三、八、七、七	六、七、〇	三、三、〇、八八	九、四、七〇	一、九、四一	〇
沖	縣	一、三、三、七四	九、〇、四九	七、八五	一、三、三、七四	七、三、三	〇、九、四	四
合	計	一、一、七、〇、八六	五、四、三、〇九	七、八五	一、一、七、〇、八六	二、七、〇、八六	二、〇、四、三六	四

備考 1、總戸數ハ昭和五年ノ國勢調査ノ世帯數ニ因ル
2、農家戸數及養蠶戸數ハ第九次農林省統計表ニ因ル

(二) 自作及小作農家

土地を持たざる農民は不安にして悲痛なり。されば農民の土地に對する慾望と愛着とは、恰も官吏の官職に對する執着と何等異るところな

し。農家は極力農民に土地を持つ政策を講じ、小作より自作に發展せんことを希求してやまず。自作農創設資金の如き、之が最も雄辯なる積極的援助政策なり。されど現在にありては、自作農創設資金は、むしろ當初の目的に反して、折角の自作農をして深刻なる借金苦に呻吟せしめ、自田も何時か抵當と化し、抵當流れて他人有となれるもの決して稀なりとせず。かくして雪國地方は、依然として自作農よりは小作農の戸數多く、生活に於てもむしろ小作農の多面積を経営せるものが、自作農よりも安易なるは屢々耳にする所なり。

而して特に注目すべき現象は、小作農の背後に小作豫備軍とも稱すべき、機會あらば小作農の土地を奪取して、自ら小作農たらんと虎視眈々たる者の多きことなり。されば小作農は自ら小作料を糶上ぐるの愚を演じ、地主の暴舉にも泣き入りする者少からず、小作農の生活は愈々不安にして、益々窮迫を告ぐるのみなり。蓋し小作問題といふも、詮じ詰むれば、土地と人間の相關々係を如何に調和せんかに歸着す。言易けれど實行至難なるは、過去の失敗歴史が何より雄辯なる證左たらすばあらず。

自作農と小作農

道	自作農と小作農		
	自作	小作	自作兼小作
北海道	六五、九二	六、六七	三、九三
青森	三五、〇六	六、三〇	三、三三
岩手	四〇、八九	三、九五	三、九五
宮城	二一、三七	八、四三	四、五九
福島	四、八七	六、三六	五、六一
秋田	一七、六九	三、六四	四、六一
			自作
			小作
			自作兼小作
			自作
			小作
			自作兼小作

百分比

道	自作	小作	自作兼小作
山形	三、五〇	三、八二	四、六八
東北合計	一七五、四二	一四、六七	三五、八四
新潟	四八、六四	五、四四	八、三二
富山	一九、三四	三、〇一	三、四五
石川	三四、七九	一四、八七	四、一〇
福井	三六、四五	一六、九四	二、一〇
北陸合計	一一九、〇二	一六、九四	一八、一七
茨城	五〇、九四	五、九五	八、〇八
栃木	三三、三五	三、一六	四、七六
群馬	三三、八八	三、一七	五、九二
埼玉	四九、四〇	五、七二	七、九〇
千葉	四三、四四	五、五三	六、五三
東京	三〇、八一	一六、八九	三、七六
神奈川	二一、五一	一九、七五	三、七四
関東合計	二四六、九七	三三、三三	三三、〇三
山梨	三〇、八七	三、〇三	三、九四
長野	六七、一三	四、八三	八、八三
岐阜	四三、一八	三、一一	六、八七
静岡	四九、四七	三、八六	九、七三
愛知	六〇、七三	四、一五	六、三二

三	重	四三、四三三	三三、三六六	五三、一四三	七〇、二六六	一九、一七	四一、七	四一、七
中部	合計	二六、八八〇	二八、四二〇	四七、七三二	三三、三	三三、七	三三、七	四一、七
滋	賀	三〇、三九八	二、三六六	三七八四三	三、八五	三三、六	四一、九	四一、九
京	都	三七、六六六	一八、〇九九	三四、二六七	三四、七〇	二二、六一	四一、八三	四一、八三
大	阪	一九、一四三	三九、七三五	二四、九八	三、八四	四七、四二	三九、七五	三九、七五
兵	庫	四九、〇四一	五四、九八〇	七九、四四六	六、七三	二九、九七	四一、三〇	四一、三〇
奈	良	三三、三六九	一八、六七九	三三、八四〇	三四、四七	六、九	三六、七四	三六、七四
和	歌	三〇、六八	二〇、〇二五	三九、九八〇	三、〇三	二四、八五	三七、一三	三七、一三
近	畿	一七、一三	一七、八四	三〇、三三四	三〇、七	二六、九	三九、四	三九、四
鳥	取	二一、六六八	三三、七四	二四、〇九九	一九、九四	三六、九〇	四一、二六	四一、二六
島	根	三〇、一〇〇	二六、六七	四八、一九七	二八、二五	二六、六	四一、〇七	四一、〇七
岡	山	四三、六九三	三三、三三〇	八三、六〇五	二八、四	二〇、〇九	五一、四三	五一、四三
廣	島	六、五〇九	五、四三〇	八六、四七七	三三、八〇	一九、〇三	四一、七	四一、七
山	口	四七、一九	三三、六〇九	五三、九三五	七、八三	一八、九三	四一、六	四一、六
中	國	二〇、一五七	一四、六六	二五、三〇三	三、四	三三、七	四一、九	四一、九
德	島	三、九七	一五、五〇	三四、三四	六、六	一九、三〇	四一、四三	四一、四三
香	川	一五、六九三	四、七三	三七、五六五	一七、八三	三九、四九	四一、六	四一、六
愛	媛	四、五八	三、八三三	五三、四六	三、六〇	二四、三三	四一、〇七	四一、〇七
高	知	三〇、〇六三	一五、三九	三三、三九九	七、三	一九、〇三	四一、七	四一、七
四	國	一三、三三〇	一五、四三七	一五、六四	三三、四三	二五、六三	四一、六	四一、六

六、耕地に関する調査

(一) 一毛作と二毛作

福	岡	四三、三八	四六、四〇八	六三、〇八六	六八、〇	三〇、七七	四一、七
佐	賀	三〇、三九八	一四、四五一	三三、三四三	三〇、三〇	二一、六六	四一、四
長	崎	四一、四五五	一四、九二二	五〇、三三三	一三、七	一三、七	四一、八
熊	本	四〇、五九九	三三、三三九	七、三三七	二八、三	二四、九	四一、九
大	分	四、〇五〇	三三、七七八	五、三七一	七、〇三	二〇、〇	四一、八
宮	崎	三六、一〇八	一八、九六六	三三、七七	三、三〇	三三、三	四一、三
鹿	島	七、七三五	一八、八三二	一〇〇、一七一	三三、九	一八、二	四一、八〇
九州	合計	二二、四三三	一五、二五	四〇〇、九四	三三、一三	二二、〇	四一、七
沖	繩	五、七二	八、九三〇	三三、三六	六五、六〇	九、八〇	四一、六〇

雪國地方の耕地は、農業に適切なりと云ふべからず。むしろ不適當なりと云はん。其の理由種々あり。寒冷地帯に屬すること其の一なり。山岳重疊して丘陵地帯をなすこと其の二なり。少くも此の二つは雪國農業にとりて致命的缺點なりと云ふも過言にあらず。固より人智の進歩と科學の發達とは、適地適作の品種を創案し、肥培管理、栽培技術等の改善工夫により、生産力の高度化を企及しつゝありと雖も、農それ自体が、より多く自然に依存する性質強きが故に、耕地の不利は容易に解消し得べきに非ず。

而して其の最大の證據は、二毛作の獎勵躍起たるに拘らず、舊態依然殆んど一毛作たるのみに徴するに、その顯著なるを窺知し得べし。九十パーセント以上、殆んど百分の百まで一毛作田たらずや。之を九州の一毛作二十三パーセント二毛作七十七パーセントに比較する時、誰か一驚を喫せざるものあらんや、余嘗つて九州に至り福岡師範學校を訪れたる時のこと、附屬小學校の首席訓導曰く「當地は二年五作は完全に於て、一年三作を銳意研究中なり。今や確信を以て此の目的を成就する近きにあるを斷言し得るなり」と。余愕然として驚嘆せり。惠まれたる哉暖國地方よ。

一毛作田と二毛作田

	百分 比	
	一毛作田	二毛作田
北海道	一〇・一八	八九・八二
青森	〇・五	九九・五
岩手	四・九〇	九五・一〇
宮城	六・五	九三・〇七
福島	八・五	九一・五
秋田	〇・三	九九・七
山形	三・七	九六・三
東北平均	四・二	九五・八
新潟	六・八	九三・二

富山	二九、五九・八	五、八四五・〇	三六・三	六三・七
石川	四〇、五〇・一	一四、六六・三	七三・四	二六・六
福井	四三、七三・七	七、六七・〇	八四・九	一五・一
北陸平均	八五、三三・四	九、五〇九・四	八九・七	一〇・三
茨城	三九、五五・六	三六、三〇・七	五三・八	四六・二
栃木	一〇、四一・一	三三、七三・九	三〇・六	六九・四
群馬	五、一〇・二	一五、九三・八	七・八	九二・二
埼玉	九、七〇・二	一一、四七・三	八九・四	一〇・六
千葉	八、八二・九	一、六三・三	八四・〇七	一五・九
東京	一七、五九・九	四、六五八・八	七九・〇六	二〇・九
神奈川	六、三五・六	一一、〇七・五	七五・〇一	二四・九
關東平均	四三、一〇・七	二六、三四・二	三六・六	六三・四
山梨	三〇、五九・五	三三、四六・〇	四六・三	五三・七
長野	三、八三・八	二、三三・〇	六〇・三	三九・七
岐阜	五〇、〇一〇・九	五〇、三三・八	四九・八	五〇・二
静岡	三、七三・六	四〇、〇二二・二	四三・三	五六・七
愛知	三〇、五九・四	三三、九六九・五	四三・九	五六・一
三重	三〇、五九・四	三三、九六九・五	四三・九	五六・一
中部平均	三〇、五九・四	三三、九六九・五	四三・九	五六・一
滋賀	三〇、五九・四	三三、九六九・五	四三・九	五六・一

京 都	二二,〇八一・三	二〇,三五八・七	三三,〇三三	四七,九九七	四七,九九七	四七,九九七
大 阪	一五,八〇六・六	三二,六二五・八	三三,三三三	六六,六六六	六六,六六六	六六,六六六
兵 庫	三九,四四四	六八,五九七・〇	三六,五三〇	六四,〇七九	六四,〇七九	六四,〇七九
奈 良	一一,六七四・四	二一,三〇一・〇	三三,四〇〇	六四,〇七九	六四,〇七九	六四,〇七九
和 歌 山	一一,九五二・四	一九,三六九・三	四〇,一七九	五九,七九七	五九,七九七	五九,七九七
近 畿 平 均	一一,八〇三・二	二〇,六四七・七	四〇,一〇一	五九,九九九	五九,九九九	五九,九九九
鳥 取	三三,八三三・八	二四,〇三九・六	五七,七三三	四三,三二七	四三,三二七	四三,三二七
島 根	三六,九六三・八	五三,〇三三・三	四一,五五九	五八,四四六	五八,四四六	五八,四四六
岡 山	三六,〇五八・七	四〇,〇九四・八	四七,五五五	五三,三三三	五三,三三三	五三,三三三
廣 島	三九,八六九・〇	五〇,六二八・六	三七,二一〇	六三,三九〇	六三,三九〇	六三,三九〇
山 口	九,四三六・九	一七,九九八・九	三三,四四八	五五,三三三	五五,三三三	五五,三三三
中 國 平 均	二,九八三・〇	三,八〇三・九	一七,五五〇	九,五五〇	九,五五〇	九,五五〇
德 島	一一,七三三・八	二二,三三九・九	三三,三三三	六六,六六六	六六,六六六	六六,六六六
香 川	一一,五〇二・二	三三,八三三・四	三三,三三三	六六,六六六	六六,六六六	六六,六六六
愛 媛	一一,五〇二・二	三三,八三三・四	三三,三三三	六六,六六六	六六,六六六	六六,六六六
高 知	一一,五〇二・二	三三,八三三・四	三三,三三三	六六,六六六	六六,六六六	六六,六六六
四 國 平 均	一一,五〇二・二	三三,八三三・四	三三,三三三	六六,六六六	六六,六六六	六六,六六六
福 岡	一一,五〇二・二	三三,八三三・四	三三,三三三	六六,六六六	六六,六六六	六六,六六六
佐 賀	一一,五〇二・二	三三,八三三・四	三三,三三三	六六,六六六	六六,六六六	六六,六六六
長 崎	一一,五〇二・二	三三,八三三・四	三三,三三三	六六,六六六	六六,六六六	六六,六六六

熊 本	一六,九七三・三	五九,六九八・八	三三,一〇四	七〇,六六六	七〇,六六六	七〇,六六六
大 分	一六,八八六・一	四一,七六六・三	二六,七七七	五七,三三三	五七,三三三	五七,三三三
宮 崎	一一,三三九・三	三三,一三三・一	三三,八八九	六六,六六六	六六,六六六	六六,六六六
鹿 兒 島	一五,八八六・三	四一,四八三・六	三三,三三三	六六,六六六	六六,六六六	六六,六六六
九 州 平 均	一五,八八六・三	四一,四八三・六	三三,三三三	六六,六六六	六六,六六六	六六,六六六
沖 繩	四,六九九・七	一,五三三・九	七五,〇〇四	二四,〇〇四	二四,〇〇四	二四,〇〇四

(二) 土地生産力

二毛作の極めて貧弱なる雪國地方は、必然的に土地生産力の寡小を示せり。即ち東北、北陸を他の諸地方に比較すれば

反當土地生産力

	昭和元年	二年	三年	四年	五年	六年	七年
東 北	五,一九三	四,四七三	四,四七三	四,四七三	三,〇三三	三,〇三三	三,〇三三
北 海 道	一三,五五	一八,九〇	一六,九〇	一四,九〇	一三,五五	一三,五五	一三,五五
北 陸	五,五五	五,〇〇	四,九三	四,九三	三,一六	三,一六	三,一六
其 他	六,九五	六,三五	六,三五	六,三五	四,九三	四,九三	四,九三

以上の如き大差あるも亦止むを得ざるものと云ふべし。而して嚴密なる検討を用ふれば、生産力を價格にて表示することは、雪國地方にとりて妥當なりと云ひ得べからず。交通不便にして市場に乏しければ、購販兩面に至大なる不利を体験するが故なり。昭和元年以降東北、北海道地方の生産力を掲げ、次に昭和六年度に於ける全國の比較を次表に明示せん

道県	昭和元年度						
	昭和元年	二年	三年	四年	五年	六年	七年
北海道	一三、九五	一八、四九	二六、六六	一四、九七	二二、五五	六、三九	六、四四
青森	五、六六	三、四七	三、一〇	三、〇六	三、五八	一四、一八	三、七〇
岩手	四、四七	三、〇〇	三、三三	三、四二	三、五七	三、〇八	三、六三
宮城	五、九四	五、三〇	五、七五	四、八四	三、三九	六、八二	三、一三
秋田	五、五五	四、八九	四、四四	四、三〇	三、三三	三、〇八	三、九六
山形	六、三九	五、四四	五、五五	五、四〇	三、四〇	三、〇九	三、七〇
福島	五、一四	四、三二	四、六二	四、三六	三、〇三	三、七二	三、〇九

昭和六年度段當土地生産力

道県	昭和六年度						
	北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島
北海道	六、二	一四、一	三、〇八	六、八	三、〇八	三、〇八	三、〇八
山形	三、〇三	三、六七	三、五五	三、一	三、二	三、二	三、二
福島	三、〇	三、〇七	三、三三	三、五	三、五	三、五	三、五
千葉	三、四	三、七	三、八三	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇
岐阜	四、一	四、五	四、六	三、三	三、三	三、三	三、三
京都	四、三	四、九	四、六	三、三	三、三	三、三	三、三
鳥取	三、五	三、三	三、三	三、三	三、三	三、三	三、三
徳島	五、三	五、〇	四、九	三、三	三、三	三、三	三、三
佐賀	三、五	三、九	三、一	三、一	三、一	三、一	三、一
鹿児島	三、〇、六	三、〇	三、一	三、一	三、一	三、一	三、一

七、小作問題に關する調査

農家戸數調査に明瞭なるが如く、雪國地方には概して地主階級と小作階級が多きを占め、其の兩者が最近數年間に亘る深刻なる不景氣の影響を蒙りて、極度の經濟窮迫に陥り、喧しき小作問題を發生せしむるに至りたり。而して小作問題は、悶着紛擾に始まり、發展しては争議亂闘となり、亞いで警察權の發動を見るに至りて頂點に達す。兎角勢の趨むく所その此處に至り、殊に山形、秋田、青森等全國有數の小作争議縣には、連年之が例に乏しからず、慨嘆の至りと云ふべし。

然れ共小作問題は、耕作權の確認更になく、背後に小作豫備軍ありて不斷の脅威を受け、常に極めて不安なる地位に置かるゝ小作農にとりては、餘りにも眞劍必死の問題たるなり。地主には頑迷なる者少なからず、私利私慾のためには容易に萬金を投ずる者も、小作人愛護のため小作料を引下ぐる者など稀なるの現状にありては、小作問題の解決は最も困難なりと云はざるべからず。

殊に雪國地方にありては、市町村の財政逼迫に伴ふ公租公課の過重と、經濟界の底知れぬ不景氣とは、中小地主をしてドシ／＼没落の道程を辿らしめ、愈々益々小作争議をして炎上せしむるの傾向あり。即ち山形、新潟、秋田等が數年間に亘りて最大件數を占め、決して關西方面に譲らざる所以は、他なし中小地主の没落と、小作豫備軍の多數に基く結果に外ならず。

今や時代の影響は、農村よりプロ的色彩の農民組合、殆んど姿を消し、争議は中間ブローカーの手を離れて、地主小作の相互交渉に移りたりと雖も、件數は依然として減少の趨向なし。關係地主、關係小作人の間、表面上は血で血を洗ふの慘事はさほど見るを得ざるも、感情上の對立はより尖鋭化し、昔日の恩情の如き、雨散霧消して、遠き一片の物語りに過ぎざるに至れり。

(一) 小作争議發生件數

内務省社會局が全國の警察網を動員して蒐集したる件數左の如し。

小作爭議統計

道	八昭 年和 位順	九昭 年和 位順	増 △ 減
北海道	一〇三	一〇五	二
青森	九	一〇	一
岩手	九	一〇	一
宮城	二六	二四	二
福島	一〇七	一〇三	四
秋田	一四	一三	一
山形	一七	一六	一
新潟	一七	一六	一
富山	一七	一六	一
石川	〇	〇	〇
福井	四	三	一
茨城	一五	一五	〇
栃木	一六	一五	一
群馬	一六	一五	一
埼玉	一〇	一〇	〇
千葉	二三	一八	五
東京	二	一	一
神奈川	八	七	一
山梨	二九	二七	二
長野	二〇	一九	一
岐阜	一八	一七	一
静岡	二五	二四	一
愛知	二	一	一
三重	二七	二六	一
滋賀	二七	二六	一
京都	二二	二一	一
大阪	二二	二一	一
兵庫	二五	二四	一
奈良	九	八	一
和歌山	一三	一二	一
鳥取	一三	一二	一
島根	二七	二六	一

(二) 爭議原因

道	八昭 年和 位順	九昭 年和 位順	増 △ 減
岡山	二五	二四	一
広島	一五	一四	一
山口	二七	二六	一
徳島	一五	一四	一
香川	一六	一五	一
愛媛	一	〇	一
高知	二六	二五	一
福岡	一七	一六	一
佐賀	一	〇	一
長崎	二	一	一
熊本	二	一	一
大分	三	二	一
宮崎	五	四	一
鹿児島	四	三	一
沖縄	〇	〇	〇
全国	四〇	三九	一

雪國地方の爭議原因は暖國地方とは著しく異なるものあるを發見す。概言すれば小作料の免除輕減に關するものは比較的少く、小作契約の繼續に關するもの頗る多きこと之なり。小作契約の繼續とは何ぞや。之即ち地主階級の没落現象を如實に物語る證左なり。固より雪國地方と雖も、小作料の高額なるは暖國地方に劣るものに非ず。否むしろ遙に高額なるは統計上明白なる事實なり。されど小作料に關する輕減又は免除の爭議少なきは、背後に小作豫備軍ありて不斷に小作の地位に脅威を受けつゝあるが故にして、若し輕減を口にせんか、耕作地取上げを以て威嚇さるゝなり。従つて高額小作料に泣きの涙を送りながらも、猫の如く從順たらざるべからざるなり。然れ共地主が經濟に行き詰まりて、小作地を他に賣却するか、若しくは小作地を取り上げて地主自ら自作するに於ては、小作人は到底黙止し得ざるに至る。之生きんが爲の最後手段なればなり。こは地主も小作人も悲痛なる生命問題たるなり。雪國地方の小作爭議は大半此の種のものにして、暖國地方とは大いに趣を異にする所なり。

岡島鳥和奈兵大京滋三愛靜岐長山神東千埼群
 山根取山良庫阪都賀重知岡阜野梨川京葉玉馬
 歌

三	四	四	六	八	一〇	一三	一四	二	一	三	五	七	四	〇	五	四
一〇	四	五	二	六	七	一〇	一六	一四	五	七	八	八	四	五	〇	三
〇	一	〇	〇	二	二	〇	〇	〇	〇	〇	一	一	〇	〇	二	二
二	〇	〇	〇	〇	〇	一	〇	〇	一	〇	三	一	一	〇	一	〇
一〇	一	一	一	六	五	八	一	一	〇	一	四	三	六	〇	二	六
四	三	一〇	六	八	一	一	一	一	〇	三	四	六	四	〇	七	五
八	五	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
八	〇	〇	〇	六	八	三	五	〇	五	三	四	二	四	五	一	一

八五

栃茨北福石富新東山秋福宮岩青北
 木城陸平均井川山潟均形田島城手森道
 海

五	二	六	二	〇	五	五	八	元	元	四	六	〇	九	七
八	五	六	二	〇	一	六	三	二	〇	七	二	〇	三	五
三	〇	〇	〇	〇	〇	二	一	一	三	二	〇	〇	二	三
四	〇	一	〇	〇	三	二	一	〇	一	一	四	〇	一	二
五	四	元	〇	〇	六	五	六	三	五	六	三	一	一	四
九	七	元	〇	〇	三	六	五	三	五	六	三	〇	八	一
一	一	六	〇	〇	二	一〇	五	八	三	三	〇	七	二	八
一	一	五	〇	〇	五	四	一〇	一〇	三	〇	〇	〇	二	五

原因別比較

小作料一時減額

小作料一時免除

小作契約繼續

小作權ノ確認又ハ賠償

沖	鹿	宮	大	熊	長	佐	福	高	愛	香	德	山	廣
繩	島	崎	分	本	崎	賀	岡	知	媛	川	島	口	島
〇	一	一	〇	一	〇	二	四	一八	一	一	三	三	六
〇	五	一	〇	〇	五	六	五	一〇	四	〇	三	一〇	二
〇	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	一	〇	一
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	一	一	〇	一	一	〇	〇
〇	一	一	三	一	〇	七	三	一〇	〇	三	九	三	三
〇	一九	四	二	一	九	五	四	二〇	四	一	三	二	三
〇	〇	二	〇	〇	一	二	一	一	〇	〇	〇	二	八
〇	二	〇	〇	〇	一	二	一	二	〇	二	〇	一	三

八、農家負債に關する調査

農家經濟にとりて最大の重壓と苦痛を感じしむるものを負債とす。借金地獄より農民を解放すれば、經濟更生事業大半の目的を達成する

所以なり。負債整理組合はかゝる趣旨より生誕を見たるものなり。されど經濟更生計畫と不可分の關係を有し、組合主義による長年月の整理案なる點に於て、運用上多大の困難を感じらる。如何にも官僚臭の紛々たるものあるを痛感す。されど整理そのものは袖手傍觀を許さるべきに非ず。殊に雪國地方にありて然りとす。一應何とか仕末せざれば、農村問題は斷じて解決の緒に就かざるなり。然らば如何なる整理方法を執るべきか。余はむしろ強大なる權力の下に、官廳自ら主動的、積極的に導引を斷行するに如かずと信ず。剝削的彌縫的の糊塗政策は、徒らに禍根を將來に貽し、國費を無益に捨つるのみ。雪國地方に於ける農家負債は、其の總額に於て、其の一戸當額に於て、遙かに暖國地方を凌駕す。しかも之を其の生産額に比較し、その所得額に比較する時に於ては、到底暖國の比に非ざるは言を待つまでもなく明々白々たり。即ち知る、雪國地方の負債は、所得の餘剰を以てしては返済の道なきものなるを。

假令少額の負債たりと雖も、之が償還義務を感じる時に於て苦痛たり。然るに雪國農民は現在の所得を以てしては償還不能なるを知悉せるが故に、殊の外借金苦を痛切に体験す。而もその利率は次表の如く頗る高率にして、利拂に利拂を重ねる中に、元金の相當額は既に返済し終へるを常とす。然るに元金は依然として一文も手が付かずして、永久に利子を生みて農民の喉を占む。惨酷の極ならずや。然らばかゝる借金は何が故に作れるや。返済の目的も計畫もなく、漫然之を作りたりと云はゞ、借金の喉を占めらるゝも甘受せざるべからず。要は生活の窮迫にあり。經濟の餘力なきが故なり。而して一度借金せんか、借金の爲に借金を重ねて、遂に永久借金地獄に呻吟せざるべからざるの運命に逢着するものなり。

わけて雪國地方にありては、高利にあらざれば融通の道もなければ、勢ひ貧乏人が利子を纏上げて借金するの矛盾を犯しつゝあり。愚の骨頂なり。然れども愚の骨頂を知りながら、高利貸に三拜九拜して之を借り、結局四苦八苦七顛八倒の苦痛を與へらるゝに至る。恐るべきは農家負債なりと云ふべし。

農家負債狀況

(昭和七年度農林省農務局調査)

愛媛	七九六	六、五三	六、四六	一〇、四〇〇	七四五	一、六、五三	一、三、七〇	5
高知	六、六〇八	一九、〇三三	一九、九三三	一五、〇〇六	八、五八二	六、九、五三	八、〇〇	16
福岡	不詳					一三、〇〇〇	一、一、〇〇	6
佐賀	九、一三五	三〇、七八六	一四、四四九	五、五七六	七〇〇	五〇、六九八	七、五八	26
長崎	五、五八一	一三、五三六	一六、〇八七	一七、一〇一	九、八〇六	六、三、三三	五、六二	39
熊本	一〇、三二七	三〇、六三五	三〇、九三三	三〇、六三五	三〇、六三五	一〇、三、一六	七、三二	32
大分	八、三三七	一〇、九六六	三、九三三	一〇、九六六	二、七四九	五、四、六四	四、四一	43
宮崎	六、七六三	一、一、六三五	一六、五九六	一三、九〇九	一四、一三九	六、一、七四	六、六〇	24
鹿児島	二、五五五	一六、〇三七	一七、〇六一	一〇、八五七	五、一、一〇	五、一、七〇〇	二、三六	44
沖縄	三、〇五九	六、八七	一、〇三二	六、八七	八、五九	三〇、三、五四	三、三	45

九、農村の窮乏状態に関する調査

農村は大正中期、歐洲大戰の終末を轉機として漸次窮迫の一路を辿り、米作の豊凶と前價の高下に依り、一喜一憂を露骨に表現しつつ、微かの希望を昭和新政にかけたりしに、既に九年を経過したる今日なほ回復の曙光すら見えず、經濟更生の懸望勇ましく官民必死の努力を傾注するも、徒らに絶望の嗟嘆に暮るゝのみ。

然らば現實に農村は、昭和新政後如何なる経過を辿り來りたるや。漠然と腦裡に描くのみにては所詮没落へと歩を進むるのみ。靜に頭を回し算盤を取りて反省する時、數字は無言の示唆を將來に與ふべし。現實は過去の上に築かれ、將來は現實の上に生くるなり。現實は過去

と將來とのかすがひに過ぎず。然るに單兵急なる現在人の仕事は、過去に對して些かも反省する所なく、無責任なる其の日暮しの官吏の机上遊戯は、五ヶ年計畫十ヶ年計畫の假裝天國のみを夢想しつゝあり。何ぞ知らん經濟更生は經濟破産に置換さるゝを。協會は全雪國町村に對し洩なく調査用紙を配布して、十年前、五年前及昭和九年現在に於ける次項の調査を依頼せり。(調査用紙には次項の外青田寶買、小作爭議、藝娼妓、女工等の調査も含めり)再三督促せるも集れるもの極めて少く、熱意頗る足らざるを遺憾とせるも、集れるもの、全部は一應整理したる上、松岡俊三代議士を通じて、政府及議會の重要参考資料に供したり。次に比較的纏りたる郡の村別調査報告二三を掲ぐべし。

青森縣 中津輕郡

収入	十年前	七〇〇	高杉村	十年前	七〇〇	東目屋村	大浦村	岩木村	船澤村	藤代村	清水村	豊田村	堀越村	和徳村
	五年前	六五〇	千代村	六五〇	六〇〇	一、〇〇〇	一、一〇〇	八〇〇	八〇〇	七〇〇	一、〇〇〇	七〇〇	一、〇〇〇	八八九
支出	昭和九年	六〇〇	千代村	五五〇	五八〇	一、〇〇〇	七五〇	七五〇	七五〇	五〇〇	八〇〇	六五〇	九〇〇	八四五
	十年前	五五〇	千代村	五〇〇	五〇〇	七〇〇	六〇〇	六〇〇	七〇〇	四〇〇	九〇〇	五〇〇	六〇〇	六三〇
飯米不足	昭和九年	四〇〇	千代村	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇
	十年前	三〇〇	千代村	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇
	五年前	二〇〇	千代村	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇
	昭和九年	一〇〇	千代村	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇

	五年前	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
昭和九年	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男
	五〇	四〇	五〇	四〇	五〇	四〇	五〇	四〇	五〇	四〇	五〇	四〇	五〇	四〇	五〇

一〇、凶作状況に關する調査

(一) 收穫高

昭和九年に於ける稻作は、全國的に異常天候に災せられ、未曾有の大激減を見るに至りたり。即ち東北地方の雪害、霖雨、洪水、低温、早冷、北陸地方の雪害、四國及近畿地方の大風害、九州地方の旱害之にして、之等災害は明治、大正、昭和を通じて殆んど稀有に近きものありたり。殊に昭和八年未曾有の大豊作の後を享けしだけに、昭和九年の大減收は滿天下の人心を刺戟すること至大なるものありたり。左に農林省統計によりて道府縣別に收穫高を表示せん。

昭和九年米收穫及減收高

北海道	收穫高	第二回豫想ニ比シ	前年收穫高ニ比シ	前五ヶ年收穫高ニ比シ
	一、七七四、八六六	二、六六六	一、四四三、三六六	三、九三三、三五五

青森	五九、四三三	三、〇九二	一、八三〇、九七七	五、七、九四三
岩手	五四、八五〇	五〇、七〇〇	八二二、九八八	六、七、〇五八
宮城	一、二四二、九二二	一、八八八	一、〇三三、三三九	七〇八、三五五
福島	一、三六二、三六六	五、七〇六	一、〇一九、三三九	六、三三、八九九
秋田	一、五三二、八三二	七、四八八	六九九、〇九九	五、三三、八九九
山形	一、二九二、三四〇	一、九、五二〇	一、一七二、一七二	九、九九、二二五
新潟	二、七八、五九九	七、七九一	一、四六六、一六九	八〇、四八九
富山	一、四八六、一九九	三、〇、一、一	四、八、八、八六	一、二〇、一、四
石川	一、〇五一、五九四	三、五、八、四	三、三、八、八	三、〇、〇、四
福井	九六、九四三	七、七、二	三、〇、一、七	七、九、一、〇、七
茨城	一、九三三、〇〇〇	九、〇、〇	一、四〇〇、四八九	七、三、一、一
栃木	一、一六五、三三三	九、七、七、七	五、六、一、八六	三、四、九、〇、五
群馬	五七、七、〇三三	六、一、七、七	一、三、〇、〇、六	三、四、〇、〇、一
埼玉	一、一六六、七四四	二、七、七、七	二、九、一、七、九	三、三、一、七、三
千葉	一、九一〇、三三四	七、七、八、四	一、一、八、七、三	一、〇、五、一、四
東京	一、七、七、〇、〇	四、一、〇、〇	四、一、〇、一、五	七、二、一、四、〇
神奈川	四三三、九〇一	三、八、八、九	八、八、四、九三	八、四、一、三、三
山梨	三九、六、五五	一〇、六、四、五	八、七、八、三三	四、九、三、三、五
長野	一、二、五、一、一〇	三、三、四、〇	四、七、九、四九	二、二、一、九、九
岐阜	一、一〇、七、一〇一	八、〇、八	三、七、九、四六三	三、一〇、八、一、三

静岡	1,101,101	1,913,111	1,918,874	1,311,549
愛知	1,067,100	5,446,000	7,411,869	5,311,311
三重	1,111,544	6,444,111	5,944,091	2,101,944
滋賀	1,353,791	8,011,111	3,001,747	1,391,014
京都	790,947	5,666,777	1,351,915	491,010
大阪	919,501	5,111,111	2,901,397	1,611,110
兵庫	2,091,011	7,311,111	4,311,011	3,461,174
奈良	711,560	1,511,560	1,011,011	400,611
和歌山	569,444	3,011,111	1,461,744	861,667
鳥取	579,066	2,111,111	1,701,666	1,311,710
島根	997,763	1,811,111	1,711,340	761,661
岡山	1,661,361	2,111,111	3,461,666	1,911,667
広島	1,448,598	5,111,061	5,111,541	911,779
山口	1,340,851	3,611,111	3,111,510	1,541,101
徳島	446,193	6,661,111	3,001,667	1,311,977
香川	761,666	3,771,111	3,311,066	1,441,511
愛媛	441,166	4,111,111	4,641,771	3,331,877
高知	666,866	3,441,066	1,911,344	1,611,544
福岡	2,111,310	2,611,660	5,661,014	2,711,444
佐賀	1,367,100	1,367,100	1,441,001	1,011,110

以上の如く一道三府四十二縣に亙る全面的大凶作にして、昭和八年のそれよりも増加したるもの獨り沖繩一縣に過ぎず、而も前五ヶ年に比してすら広島、佐賀、長崎、沖繩の四縣が僅かに増収を見たるのみ。殊に北海道、東北六縣に於ては、前年の五六割、前五ヶ年の三五割に相當する程の大減収なり。

(二) 收穫高順位

昭和五年以降昭和九年に至る收穫高の地方順位を比較するに、昭和五年より昭和八年に至る四ヶ年間は概して、その順位に甲乙を發見し得ずして、例年略々同順位を保持せり。然るに昭和九年度の收穫高は突如平地に大波瀾を起して、從來の順位は全く混亂に陥りたり。即ち次表の如く、第一位新潟縣は依然として變化なきも、例年六、七、八、九の地位を上下して讓らざりし山形、秋田、福島、宮城の諸縣は何れも十位以下に顛落し、殊に山形縣の如きは六位より二十三位に落ち、前年二十八位の岩手縣は四十二位といふ全國最下位に近き悲惨なる状態に置かれたり。

收穫高地方順位

北海道	五昭和	六昭和	七昭和	八昭和	九昭和
青森	二	三	三	二	六
岩手	二	三	三	二	三
宮城	二	三	三	二	三
福島	二	三	三	二	三
秋田	二	三	三	二	三
山形	二	三	三	二	三
新潟	二	三	三	二	三
富山	二	三	三	二	三
石川	二	三	三	二	三
福井	二	三	三	二	三
茨城	二	三	三	二	三
栃木	二	三	三	二	三
群馬	二	三	三	二	三
埼玉	二	三	三	二	三
千葉	二	三	三	二	三
東京	二	三	三	二	三
神奈川	二	三	三	二	三
徳島	二	三	三	二	三
山口	二	三	三	二	三
山梨	二	三	三	二	三
長野	二	三	三	二	三
岐阜	二	三	三	二	三
静岡	二	三	三	二	三
愛知	二	三	三	二	三
三重	二	三	三	二	三
滋賀	二	三	三	二	三
京都	二	三	三	二	三
大阪	二	三	三	二	三
兵庫	二	三	三	二	三
奈良	二	三	三	二	三
和歌山	二	三	三	二	三
鳥取	二	三	三	二	三
島根	二	三	三	二	三
岡山	二	三	三	二	三
広島	二	三	三	二	三
山口	二	三	三	二	三
徳島	二	三	三	二	三

香川	三	三	三	三	三
愛媛	三	三	三	三	三
高知	三	三	三	三	三
福岡	三	三	三	三	三
佐賀	三	三	三	三	三
長崎	三	三	三	三	三
熊本	三	三	三	三	三
大分	三	三	三	三	三
宮崎	三	三	三	三	三
鹿児島	三	三	三	三	三
沖縄	三	三	三	三	三

(二) 減收歩合

全国共通の凶作なれども、其の減收程度には頗る差等あり。決して一様にはあらず。即ち其の減收歩合は

北海道	昭和八年に比し	前五年に比し
北海道	〇・四四	〇・一五
東北	〇・四九	〇・四〇
北陸	〇・二七	〇・二二
関東	〇・一五	〇・一一
中部	〇・二六	〇・一五
青森	昭和八年に比し	前五年に比し
青森	〇・五九	〇・四六
岩手	昭和八年に比し	前五年に比し
岩手	〇・六一	〇・五四

殆んど北海道及東北地方は、他地方の二倍乃至三倍の大激減を示し居れり。更に東北六縣の縣別狀況は

宮城	〇・四七	〇・三八	—	—
福島	〇・四一	〇・三三	—	—
秋田	—	—	〇・三一	〇・二五
山形	—	—	〇・五〇	〇・四六

以て如何に甚しき減収なるかを想察し得べく。三割に止まりしは獨り秋田一縣のみ。青森及岩手の二縣に至りては、昭和六七年に相當の減収を見、更に昭和九年に六割の大減収を來したるなり。

(四) 段當收穫高

總收穫高の比較は各府縣の面積に依存すること大なれば、稻作經營諸般の事柄に關して比較考察するには妥當を缺くの嫌あり。よりに段當收穫高を算定し、以て土地・技術・經營其他諸種の問題を攻究すべく、次に之を表示すべし。而して東北地方は一毛作なるに拘らず、段當收穫の劣弱なるは抑々何を物語るものなりや。之を既述の段當生産額に比照して、雪害問題を再思三省の要あるべし。

段當米收穫高

北海道	昭和五年	一五 ^升	昭和六年	一五 ^升	昭和七年	一四 ^升	昭和八年	一七 ^升	昭和九年	一七 ^升
青森	一六	一七	一五	一六	一五	一六	一六	一六	一六	
岩手	一四	一七	一五	一六	一五	一六	一六	一六	一六	
宮城	一三	一五	一四	一五	一四	一五	一五	一五	一五	
福島	一四	一七	一五	一六	一五	一六	一六	一六	一六	
秋田	一三	一四	一三	一四	一三	一四	一四	一四	一四	
山形	一三	一四	一三	一四	一三	一四	一四	一四	一四	
新潟	一三	一四	一三	一四	一三	一四	一四	一四	一四	
富山	一三	一四	一三	一四	一三	一四	一四	一四	一四	
石川	一三	一四	一三	一四	一三	一四	一四	一四	一四	

福島	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八
茨城	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八
栃木	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八
群馬	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八
埼玉	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八
千葉	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八
東京	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八
神奈川	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八
山梨	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八
長野	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八
岐阜	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八
静岡	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八
愛知	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八
三重	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八
滋賀	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八
京都	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八
大阪	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八
兵庫	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八
奈良	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八
和歌山	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八
鳥取	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八
根	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八
島根	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八
岡山	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八
廣島	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八
山口	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八
徳島	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八
香川	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八
愛媛	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八
高知	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八
福岡	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八
佐賀	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八
長崎	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八
熊本	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八
大分	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八
宮崎	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八
鹿児島	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八
沖縄	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八

厳正なる塩水選を行ひ、且つ種子に附着せる稻熱病菌の絶滅を期するためホルマリン五十倍液に浸漬する。

備芽は鳩胸程度に行ふ、無備芽は幾分發芽が遅延する不利があるし、備芽甚しければ寒氣に遭つて成績が面白くないからである。

三、苗代

普通苗代と温床苗代とを設けたが、その管理は周到を極めてゐる。四隣で午睡をしてゐる晝休みにも丹念に手入をして飽くことがな

イ、普通苗代

まづ五月中旬苗代の雪割作業を行つた。一反歩の苗代田の雪割であるから随分骨が折れた。八十に近い祖父にまで手傳つて貰つて、能力換算労働時間三百六十八時間を費した。君自身は村の雪割督勵等に奔走しながら奮闘して、五月十九日に播種した。部落の人々もそれより三四日遅れて播種したが、何分當時なほ三尺前後の雪の中であつたから餘程の自覺がなくては時けないことであつたといふ。

苗代の整地は、秋季耕起し、人糞尿の和き肥料を全施用量の半量程度此の際施しておく。耕土はつとめて淺耕し、乾田とし、短冊苗代とする、東北地方には從來平蒔苗代を見るが、これは澁排水に不十分なるのみならず、管理にも不都合を極め、軟弱苗となる處があるから絶體に短冊苗代とするのである。

苗代の肥料は、從來本村一般の習慣としては人糞尿専用であるが、これを避けて特に燐酸加里肥料を多施し、また親殺の燐炭を多量に施用する。燐炭は苗代實干し當時短冊面に撒布種子を被覆する。之は日中陽光温熱を吸収し、夜間の被覆物ともなつて温熱を保持し、苗代にも便であるし、腐敗病菌の寄生を少からしむるからである。

播種量は坪三合を標準としてゐる。

腐敗病豫防のため播種一週間後に三斗式ボルドー液を反當七八斗撒布し、其後稻熱病豫防のため、苗二三寸の頃と植付一週間前の二回にボルドー液を撒布するが效果大である。

ロ、温床苗代

普通苗代が融雪期遅延とか寒冷のために播種期に到つても下種し得ない場合に設けるもので特に苗の生育を促進する効果がある。温床は普通煙草苗床に準じて設けるが、特に注意すべきことは

- 一、日照良好なる個所に設けること。
 - 二、醗熱物は温度の持續を必要とすること。
 - 三、肥料は大部分用土と混合しておくこと。
 - 四、用土は苗取り其他に都合よき様、豫め川砂二、田土四、堆肥四を混合し、前年秋に堆積しておくこと。
 - 五、温床苗は急激な生育をする關係上、稻熱病に犯され易いからボルドー液の撒布を怠らぬこと。温床作製用藁の如きも消毒すること。
 - 六、灌水に特に留意し、床面の乾燥を防ぐこと。
 - 七、被覆物は終期は除去し充分外氣に觸れしむること。
 - 八、播種量は坪三合乃至五合位とし適當に間引すること。
- 平年の播種期は八十八夜頃であるのに、九年度は大雪のため約二十日間も遅れた譯であるから、心ある者はその作況を憂慮してゐたが、さりとて人爲的に促進して果して好成績を擧げると疑念を抱いて、誰も自然服従説を固持して一種のあきらめに近い氣持でゐたが、君は會津分場で教はつたのを基礎として之を敢行した。
- 十坪の温床に下種したのは五月十日であつた。

四、直播

直播は約三畝ほど實行してゐる。直播は苗代が失敗に終つた場合、苗代に適期に播種し得ざる場合、勞力の分配をよくする場合等に行ふが、田植の植傷みを免れ、播種が遅延したときでも生育が比較的遅れず、強剛に生長するので病害、殊に稻熱病に犯されることが少いといふ利點がある。

直播機にて播種すれば便利であるが、二三段の少面積にはコロガシ(田植定規)、ガヂ條にて條目をつけ、手にて蒔く。

整地は高低なきやうに留意して丁寧に行ふ。

播種の適期は五月上旬より二十日までとし、二三寸に伸びた時第一回の手取除草を行ふ。其他は挿秧栽培のものと同様である。南會津の雪害地には當局から直播栽培を奨励されてゐるが、これを實施して成功したのは恐らく君だけだと云はれてゐる。

五月二十三日時で、株間は九寸×三寸の坪八十二株とし、品種は平井一號と陸羽百三十二號を用ひた。周囲の田が殆ど實らぬ中で、君の直播田のみが全然被害を蒙らずに續々と結實してゐるのには附近の人々も驚嘆したといふことだ。

五、本 田

君は半乾半濕の所有田を數年前から暗渠排水を行つて殆ど乾田とし、毎年春の融雪前に橋で田地に客土をしてゐるが、その大規模なのに隣人は驚いてゐる。これがため地力の増進と、金肥を比較的經濟的に使用してゐるのは見逃せない事である。

冷害の年には極端な深耕は稻の生育を遅らしめ失敗を招き易い。また冷害地方に於ては危險を伴ふ極端なる多收設計は慎しむべきであると稱してゐる。

六、本 田 の 肥 料

君は二ヶ年前から農事試験場指導の下に精密な肥料試験を行つて、施肥技術を錬磨してゐるが九年度は融雪が遅く稻の生育期間が短縮せられると見てとつたので、肥料半減の設計で進んだ。

即ち普通乾田は堆肥三百貫、硫安三貫、過燐酸石灰五貫、濕田は堆肥三百貫、硫安三貫、過燐酸石灰五貫、肥料石灰二十貫とした。これに對して君は左の如く説明してゐる。

イ、窒素肥料の半減は、九年は生育期間が短縮したので出来遅れによる青立、或は急激なる成育による軟弱につけ込む稻熱病を恐れた結果でもあり、大部分早稻で愛國等よりも耐肥性の少ない事も考慮し、從來使用の石灰窒素は幾分遲効性なのに鑑みて全然見合はせ、硫安のみを全部元肥に施した。

殊に穂首稻熱病は窒素肥料の殘效に禍されることが多いのを恐れたからである。稻が吸収する範圍内に於て安全な肥料設計を立てること、堆肥は良く腐熟したものをを用ひることが肝要である。

ロ、燐酸肥料は生育促進の意味をもつて九年度も例年通りに施した。これは肥料試験の結果、無燐酸區と燐酸倍量區とで、出穂期に一週間の開きを示してゐるし、分蘗その他も之に準じてゐることを確めたからである。

ハ、加里は反當堆肥三百貫程度の使用により特に施さずとも十分であると認められる。

ニ、石灰加用區は肥料の分解が促進し生育が速くなるし、病害の發生を防ぐことを認めたので特に濕田の出来遅れを防ぐために用ひた。

尙堆肥は平年ならば、四五百貫を施用するの今回は三割方減施した。この残りの堆肥を畑に施したので九年度は馬鈴薯の不作も免れ得たといふから愈々合理的である。

七、田 植

特に早植とも密植大苗とする。但し軟弱なる苗を大苗に植ゑる場合は植傷みがあるから強健な苗を養成しなければならぬ。密植といつても株間を狭め、畦間を廣くするやう留意すべきである。

一株早生七、八本、坪七十株で、四圍の人より二倍の本数を植込んだ。六月十四日といへば平地の雪が消えて僅々半ヶ月で、四隣では荒起さへも始まらぬといふのに温床育成の苗をさつさと植ゑ始めたのは村人はあつげにとられたといふ。

二反半の温床苗を植終つて、六月十九日から愈々本苗代の植付を開始し、二十六日までに一町歩の田を全然雇人なしで植ゑた。君が一町三反の田を全部植終つた六月三十日は、村では田植の最盛で、すっかり終つたのは七月中旬になつてゐた。

八、害 虫 防 除

將に田植の迫つて來た時、苗代に猛烈な葉喰蟲は、むぐり蠅の發生を見て、さなきだに發芽生育の不良な一般苗代が殆ど全滅を來たさんとしたが、君の苗代には全く被害が認められなかつた。

以前同蟲は本田植付當初濕田殊に湛水の甚だしい個所に毎年發生を見たが、一般は單なる植傷み、泥負等のためと考へてゐたが、君は實驗の結果、排水を行ふことが、はむぐり蠅の退散に效があるのを知つて短冊苗代とし、而も君の指導によつて溝間の被害苗を除去

九、除草と灌溉水

し、排水をした者には全然その被害を見なかつた。
田植を終ると直ぐ翌日から除草に取りかかり、田地が自宅から五六町も離れてゐるので、辨當持參で除草をやつた、田圃に足を踏み込んで田の畦で辨當を開き、日蔭慰ひもせず飯を嚼みながら幾らかでも暖かい中に田を掻き廻はすといふ、實に超人的な努力を續けたのである。

九年度は雨天勝で低温が持續したので、地温を保つためと、分蘗抑制のために、君は常時約二寸の深水を續け、母本（主莖）を護ることに努めて、分蘗は例年の二三割を減じ、七月二十日までに分蘗を限定した。

これは凶作防止の肝要なる戰術であるが、一般の田圃では、一株の苗本数が二三本あるのに加へて、君が無効分蘗を抑制することを力説しても無關心であつたから、八月に入つても尙分蘗を續け、その結果失敗した人も多かつた。

君の除草は中耕除草器一回・手取二回で、七月中に切り上げた。
又穂首稻熱病の豫防には落水を幾分遅らしめることが有効であるとして、君は殆ど刈上げの頃まで水を掛流しにしてゐる。

大要は上記の如くであるが、君は結論として「自分が今回の冷害に好成绩を収めたのを、唯技術的方面のみから觀察せられては當らぬ。これは稲に對して一貫せる魂を打込んだ愛の心によつて培つた結果である。尙この技術は自分の不斷の研究と、縣立農事試験場に於ける懇切なる指導の賜である」と云つてゐる。

——（大日本聯合青年團主事 石原治良氏 稿）——

(三) 坂本久一郎君の多角經營（秋田縣鹿角郡曙村）二十六歳

經營面積は田一町三段、畑八段、普通労働者四名、半労働者二名、非労働者三名。

一、畑地利用

従來の大豆四反歩、粟四反歩を變更して、八年度には馬鈴薯一反歩、小麥五畝歩、後作として蕎麥と大豆を加味して相當の成績を擧げ、九年度には大豆二反歩、粟一反五畝歩として、馬鈴薯一反歩、小麥七畝歩に殖し、後作として蕎麥二反歩、白菜其他を五畝歩栽培し、其の結果は馬鈴薯四五〇貫、小麥一石五斗五升、蕎麥四石を收穫し、従來畑作收入五十圓程度が一躍七十圓を突破した。

二、養蠶、養畜

昭和七年には五瓦、八年には十五瓦、九年には二十五瓦、その收穫量十貫を得、君としては上々の出来であつた。

馬鈴薯栽培の關係から昨年始めて養豚を試む、仔豚三頭と一圓九十錢の飼料を買つたが、屑の馬鈴薯三百四十貫を利用して四十九貫の豚肉を得た。

養鶏は八年には五十羽を飼養したが、昨年は鶏舎の關係から二十羽に減じた。自家生産の馬鈴薯、枇、粟等を以て飼養した。

三、其他

薬工品として昨年は冬間に米皮蘖六百俵、肥料吹三百枚、其他で五十五圓程生産したのであるが、本年は蘖が短い關係から若干は減少の見込である。その代りに今冬は餘剩勞力を利用して製炭に従事し、雪の消えるまで約一百圓を目標にやつてゐる。

其他蜜蜂、家兎等も飼養してゐるが、未だ云ふべき時期に達してゐない。椎茸も準備を始めてから三年になつたので昨年は相當の收穫があつた。

四、家族の分擔及勞力

父	稻作と木炭	一〇	母	養蠶	八
久一郎氏	畑作養豚薬加工等	一〇	久一郎氏妻	同	上
弟	養鶏、養豚	五			

稲作	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月
	一八・五	三七・五	三〇・七	三六	八〇・一	三九	三	三〇・五	八六	三五・五	一四〇	一六一・五

五、收支決算	九年度		八年度		増減△
	現金	現物	現金	現物	
畑作	〇	〇	一三	二五・三	二八・五
家畜	〇	〇	六五	七	九
山林	〇	〇	〇	〇	〇
養蠶	〇	〇	〇	〇	〇
加工	四六・五	〇	六	〇	一六
兼業	〇	〇	〇	〇	〇
堆肥	〇	〇	〇	〇	〇
其他	八	〇	八五	〇	三
合計	五三	五三・五	七九	一、〇七・五	一、一五
加工	〇	〇	〇	〇	〇
木工	〇	〇	〇	〇	〇
炭	〇	〇	〇	〇	〇
其他	〇	〇	〇	〇	〇
合計	〇	〇	〇	〇	〇
現金	一〇	一〇	一〇	一〇	〇
現物	三〇	三〇	三〇	三〇	〇
合計	四〇	四〇	四〇	四〇	〇

○自給肥料は計算に入れず

(四) 山形縣飽海郡農會の参考事例

庄内米の産地山形縣飽海郡農會に於ては、地方的適品種及施肥の適量を研究するため、昭和四年以來郡内數ヶ所を選定し、其の地方に於て最も廣く栽培するもの及有望と認むるもの、四乃至六品種に付、其地方に於て普通と認むる施肥價額を以て、標準區とし其價額にて配合施肥し、少肥區は標準區の二割乃至二割五分減多肥區は二割乃至二割五分増の施肥量にて、詳密なる試験研究をなしたる結果は、次表の結果を得たり。因みに各區反當生産米、屑米、糞の價額より金肥代を差引き収入の多寡を判定す。

昭和四年	少肥區			標準區			多肥區		
	現金	現物	計	現金	現物	計	現金	現物	計
同	四、三	五、〇〇	九、三	七、五	七、五	一五、〇	七、五	七、五	一五、〇
同	七、一	七、一	一四、二	七、五	七、五	一五、〇	七、五	七、五	一五、〇
同	七、一	七、一	一四、二	七、五	七、五	一五、〇	七、五	七、五	一五、〇

○概算なり

食費	六、七	肴、砂糖、其他
被服費	二、九	電燈、其他
光熱費	一〇、〇〇	井戸一具
家具什器	四、五	兒童一人の學用品費
教育費	三、〇五	應酬答
交際費	三、〇七	酒、煙草
嗜好費	二、三	
娛樂費		

衛生費	一七、五	藥、醫療費
修養費	一六、二	圖書、講習會費
冠婚葬祭費	三、七	雜公課(租税の外)
諸掛	一六、三	
雜費	一〇、〇	
合計	五〇、〇	

○昭和八年度の現金支出なり。

同 八年 六、〇三 六、六六 五、六二
 同 九年 五、六六 五、七三 五、八三
 平均 六、一五 五、〇一 五、三〇

概して多肥區は成績不良なるを認む

(備考) 1、一石價額 玄米 二一・七〇 屑米 一〇・〇〇 批 六・〇〇
 2、反當標準施肥量 大豆粕五貫、飼料粕五貫、石灰窒素二貫五百匁、硫酸二貫、過石五貫、塩加一貫五百匁、生石灰五貫匁、堆肥三百貫 (中平田村、平野部)

郵便貯金一人當

北海道	天、〇三	順位	愛知	一三、六七	順位
青森	六、〇〇		和歌山	一六、〇三	
岩手	五、六六		岐阜	一〇、九四	
宮城	五、〇九		徳島	九、四八	
福島	七、〇六		埼玉	九、四四	
秋田	三、九〇	46	福井	九、三三	
山形	三、九〇	45	京都	八、六九	
山形	三、九〇	45	都	八、六九	7
沖繩	三、六六	47			

國有林野營林局別狀況

昭和四年度

局名	收入	支出	純益
青森	五、四七、八九四	四、〇〇、〇九四	一、四七、八〇〇
秋田	九、四三、〇六一	四、八〇、六一二	四、六三、四四九
大東	四、三三、〇三三	四、三三、〇三三	一三、七四七
高知	二、七九、三六七	二、七九、三六七	九、一八八
熊本	四、〇七、七三三	二、四三、九三三	一、六三、八〇〇
熊本	六、三九、一〇一	四、二八、〇〇六	二、一〇、〇九五

昭和六年度

青森	五、〇七、一〇七	三、六四、〇七三	一、四三、〇三四
秋田	八、三六、九八五	四、〇三、九七六	四、三三、〇〇九
大東	三、七九、三〇七	三、五三、五七六	二五、七三一
高知	二、六四、三三〇	二、五三、〇七八	一一、三二二
熊本	三、八五、〇六八	一、三三、四九六	二、五一、五七二
熊本	五、九三、三三〇	三、九七、〇五〇	一、九六、二八〇

昭和五年度

青森	五、七五、二四四	四、三三、五〇一	一、四一、七四三
秋田	八、七四、七七八	四、八四、七二〇	三、九〇、〇五八
大東	四、三六、一八〇	四、三三、一八四	三、〇二、九九六
高知	三、四三、三九五	三、一四、四三三	二、二八、九六一
熊本	四、七三、一〇八	三、九四、〇七五	八〇〇、〇三三
熊本	六、七三、三四六	四、五〇、〇六七	二、二三、二七九

昭和七年度

青森	四、四九、六八八	三、四六、〇七七	九三、六一一
秋田	八、二〇、一七四	三、七九、四四五	四、四〇、七二九
大東	三、一八、四四〇	三、四七、〇〇一	二七、〇六一
高知	二、三〇、九五三	二、五九、六八九	△ 二七一、九七四
熊本	三、七五、六三三	三、二一、六九七	△ 六八一、九三〇
熊本	四、五七、四四六	三、七三、〇七七	八四、三〇九

昭和八年度

青森	四、一九三、三九	三、六七、七四	五六四、四五五
秋田	八、五六九、三六	三、八四、五七三	四、七四、七五四
東京	三、四〇〇、〇九	三、六〇〇、三五六	三、三〇、三七
大阪	二、三六、〇八	二、五〇三、六三二	二、二七、六〇四
高知	三、八一七、九四	三、二四、五一	五九、七三
熊本	四、四四、〇七六	三、五七、四三	八六、六五四

昭和十年五月十五日印刷
昭和十年五月二十日發行

山形縣新庄町沼田三〇

編輯兼 圖 司 安 正

山形縣西村山郡西根村一四一番地

印刷者 大 沼 清

發行所

山形縣新庄町
役場內

雪國更生協會

振替仙臺七五八九番
電話 三二五番

14.24
797

終